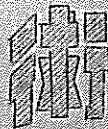


号数	発行日	見出し	内容等1	内容等2
1	昭和32年11月16日	発行に当たって 展覧会案内 ニュース お知らせ 画廊めぐり	館長 重 達夫 △第21回自由美術展 △ゲンビ展 △走泥社展 △友の会生る △新制作展鑑賞会 △友の会々員に! △京都府ギャラリー	△第3回墨人会公募展 △第15回パナリアル展 △朱雀高校美術部展 △井島教授の美術講演会 △京都書院画廊
2	昭和32年12月11日	日展 鑑査感想 特選作家のこぼ	時 12月12日～1月8日(28日～元日は休館) ☆第1科(日本画) ☆第2科(洋画) ☆第3科(彫塑) ☆第4科(美術工芸) ☆第5科(書) ☆題名「梅」(日本画)猪原 大華 ☆題名「静物」(日本画)池田 道夫 ☆題名「火口原」(日本画)下保 昭 ☆題名「細船」(日本画)沢野 文臣 ☆題名「薫風」(蠟染)岸田 宗三郎 ☆題名「層容」(工芸)清水 洋 ☆題名「うたごえ」(工芸)藤平 伸	於 京都市美術館 審査主任 中村 岳陵 審査主任 中村 研一 審査主任 朝倉 文夫 審査主任 山鹿 清華 審査主任 豊道 春海
3	昭和33年1月10日	日展の沿革 展覧会案内	△常設美術館の要望 田中 豊 △大切な児童画の教育 西田 秀雄 △描く楽しさ 中村 茂一 △第25回独立美術展(1月11日～26日有料) △第8回日吉ヶ丘美術工芸コース展(1月25日～1月27日無料) △東邦書院書初展(1月25日～1月26日無料)	
4	昭和33年3月20日	「近代日本絵画の歩み」展について 当館新所蔵品紹介 お知らせ	京都市美術館長 重 達夫 △竹内栖鳳作「雨」明治44年第5回文展出品 △小野竹喬作「冬日帖」昭和3年第7回国展出品 △中国敦煌芸術展(有料～2月16日) △京都アンデパンダン展(無料2月11日～2月16日) △近代日本絵画の歩み 土曜講座	2月15日午後2時 於当館「世界に於ける日本近代絵画の位 2月22日午後 於当館「随想 近代日本絵画」井島 勉氏
5	昭和33年3月20日	昭和32年度展覧会の回顧 京都市(美術館)主催の美術館 32年度中の新収品(2月現在)	第9回京展5/1～5/14 最近のドイトン版画展10/12～10/27 近代日本絵画の歩み2/1～2/28 田中 佐一郎作 油彩「黄土B」 梁本 一洋作 日本画「送り火」 竹内 栖鳳作「雨」	第11回市民美術展8/13～8/18 第13回日展12/12～1/8 京都アンデパンダン展2/11～2/16 三宅 鳳白作 日本画「花旦」 田中 佐一郎作 油彩「花」 小野 竹喬作「冬日帖」
6	昭和33年4月18日	京都の歴史 ニュース	第10回記念 京展 自5月1日～至5月14日 △西山 翠嶂画伯逝去 △友の会総会予告	△児童美術教室発足
7	昭和33年5月21日	「京展」終わる 買上作家のこぼ 第10回記念賞受賞者紹介 展覧会案内 講演会開催	△日本画「坐像」三輪 良平 △彫刻「狗」上田 弘明 △書「漁 父辞」岡本 憲一郎 △日本画「河」山岸 純 △モダンアート協会展(5/22-5/30有料) △青陶会展(5/25-5/30有料) 講師 モダンアート会員 村井 正誠氏 時 5月24日(土) 所 京都市美術館	△洋画「静物」福井 勇 △工芸「盛器」久保 金平 △書「水の鳴り」浅井 素堂 △行動美術京都作家展(5/24-5/30有料)
8	昭和33年6月24日	初心者に必要な絵の道具 美術館での展覧会予告	6/25-29 青塔社展 日本画(無) 6/28-29 行余書芸展(無) 7/12-13 鳳雛書道展(無)	6/25-30 グループ連合展 7/18-20 水明書道展(無)
9	昭和33年7月15日	日本とベルシヤ 美術講座実技指導開設のお知らせ	△アカイメネス王朝時代(前550-前331) △サーサーン王朝時代(226-636)	△バルティヤ王朝時代(前250-前226) △用語解説 主としてバルシヤ美術に関する
10	昭和33年8月	美術館夏期講座 国際文化観光会館建設工事始まる 友の会だより	美術概説 日本美術の部	京大教授 井島 勉氏 京大助教授 蓮美 重康氏
11	昭和33年9月30日	豊かな滋味と清らかさ 美術館夏期講座 友の会だより 展覧会案内	印象派まで モダンアート	洋画家美大教授 黒田 重太郎 京都工織大教授 河本 敦夫
12	昭和33年10月30日	ゴッホ展を迎えて 美術館11月の催し 川合玉堂について 展覧会案内	重 達夫 パナリアル展 自由美術展 墨人展 源 豊宗	新制作展 二紀展
13	昭和33年11月25日	ゴッホ展開く 美しい非俗 白隠とゴッホ 展覧会案内	12月3日～27日 加藤 一雄	
14	昭和34年1月5日	日展新春を彩る ゴッホ断想 雪の絵のことなど 展覧会案内	1月27日～2月15日 木村 重信 洋画家 黒田 重太郎氏	
15	昭和34年1月25日	日展の今昔	金島 桂華	

		初出品の弁 豪華で重厚な絵を 展示会案内	高田 淑子 西山 英雄氏	
16	昭和34年3月5日	アンデパンダン今日まで オシュコルヌ氏夫妻の日展合評 ロマンの残党として 展示会案内	市村 司 八木 一夫氏	
17	昭和34年3月31日	欧米の旅から 見聞紀談 ありのままの一筋に 児童美術教室の一年 展示会案内 4月	河北 倫明 岡部 三郎 梶原 緋佐子氏	
18	昭和34年5月8日	京展特集 京展を語る 対談 見聞紀談 自然・写実・自由 展示会案内 友の会	5部門合わせ九百点 京都工芸繊維大教授 河本 敦夫 岡部 三郎 上村 松篁	第10回京展開く 5/3-17 夕刊京都芸部長 原 在修



### 発刊に当って

館長 重 達 夫

美術普及ということが、美術館の大きな使命の一つであることは云うまでもないことである。もちろんこのことは教育や文化全般との関係に於て成し遂げられねばならないことであろうが、幸いにも、戦後のわが国では、展覧会や出版界で「美術ブーム」といわれるほどの方面が盛んになつてきたことは誠に喜ばしいことです。当美術館としまして、更に、よりよい展覧会の開催に努めますと共に、美術普及の面にも大いに力を注いで参りたいと思つております。このたび「友の会」の発足と期を同じうして、さゝやかな「美術館ニュース」を出すこと、致しましたのも、この現れの一端に他なりません。まずしい出発ですが、充実へのひとすじ道を辛棒強く一歩一歩ふみしめて参りたいと思つていきます。

### 展覧会案内

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

△ 才21回自由美術展(11月17日~28日 有料)

自由美術家協会は昭和十二年に、自由で民主的な運営を標榜して結成された、長い歴史をもつ洋画、彫刻の在野団体です。創立以来会員の變動はありましたが、常に美術に於ける進歩性を守り、現在では森芳雄、末松正樹、糸園和三郎、難波田龍起、井上長三郎、麻生三郎、鶴岡政男、小野忠弘、小山田二郎らが活躍

しています。前衛の牙城と云われながら、歴史が古いだけに、どこかしつとりとした文藝的な香りをたぐえ、若い批評家に最も人気のある在野展の一つと云えましょう。京都在住会員として竹中三郎、三木弘、井沢元一らが活躍しています。陳列点数約一六〇。(重)

△ 才3回墨人会公募展

(11月17日~20日 無料)

墨人会は森田于龍、辻太、江口草幻、関谷義道らによる前衛的な書家のグループで、

月刊誌「墨人」「墨美」「ひびき」などを通じて、墨象芸術の追究にわが国でも最も意欲的な活動をしている団体です。近年、フランスを始めヨーロッパ諸国で日本の「墨の芸術」が大きな問題を投げかけていますが、これもこの墨人会のメンバーの活躍に負うところが多いのです。今回の公募展は、京都に引きつづき東京開催が予定されています。いわゆる前衛書道とはどういふものかを知るにいい機会です。(重)

△ゲンビ展(11月22日)28日 有料)

ゲンビ展は三年ほど前から大阪朝日の肝入りで、吉原治良(二利会々員)須田勉太(国画会々員)津高和一(行

動美術会員)ら関西の前衛作家を委員に公募展として発足した展覧会です。京都からも始めは伊藤久三郎、八木一夫、森田子龍ら多数の参加がありました。その後変動があるようですが、絵画、彫刻、をはじめ写真、服飾まで含めた市の広いものですが、やはり中心は、芸術のアクロバットだとか既成芸術への肉弾戦法だとか云われ紙上をにぎわした「具体派美術」の作家のものと思われず。こうした新奇な実験が、新しい芸術に何を附加するかは今後の問題だけに、興味深い展覧会と云えます。(重)

△才15回パン・リアル展

(11月23日)27日 無料)パン・リアル展は戦時中に

結成された京都の若い日本画家の団体です。画面を全て抽象形体をとっている日本画の団体としては吾国唯一のものでしょう。真実(リアル)は抽象形体をとるといふ意味でパン・リアルと称しています。しかし、流石に京都に育つただけに繊細で静かな空気の流れている点は注目に価すると云えましょう。下村良之介、大野秀隆らが活躍しています。(加藤)

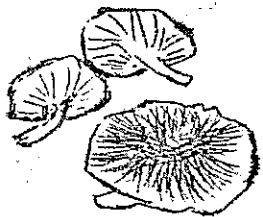
△走泥社展(11月23日)27日 無料)

走泥社は戦後八木一夫らによつて結成された京都の若い工芸家の団体です。若い人々だけにその作品には知性が流れています。この知性が京都本来の優美な感情と交り合つ

て一種奇異な美しさを創り出している点一見に価するところ。近年、「パン・リアル展」と同様に、東京展を開催し、京都で育つた日本画と工芸の新しいグループとして注目をひいています。(加藤)

△朱雀高校美術部展

(11月23日)27日 無料)山田勇(示現会々員)を指導者とする同校のクラブ展です。



\*\*\*\*\*  
ニユーース  
\*\*\*\*\*

△友の会生る

京都市美術館を中心に友の会を作りたいという声は、かねてからあつたが、漸くその機が熟して去る十月中旬から有志の人達が発起人となつて募集を開始したところ、申込者が百八十名をこえるに至つたので、十一月九日午後一時から美術館会場に於て創立総会を開くこととなつた。

総会は折からの秋晴れに出席者二百名をかぞえ、発起人の一人として重館長が座長に選ばれ、会則の審議決定、役員を選挙など順調に議事が運ばれた。

会長その他の委員には次の

諸氏が決定したが、創立当初のこと、会員相互間の事情も明らかでないので、更に適當な委員を追加することを委員会に一任することとなつた。

- 会長 田中 豊氏
- 副会長 二名 欠員
- 委員 田畑撫平氏 (会計)
- 大谷久美子氏 (監査)

池上正二氏

大原与一郎氏

河合遠男氏

楠部俱子氏

杉林八重子氏

土坂清子氏

中村茂一氏

今井千代田郎氏

重 達夫氏

岡部三郎氏

堀 啓氏

議事終了後、田中豊氏より

会長就任の挨拶があり、高山京都市長もかけつけて、山口県宇部市に於ける音楽友の会の活動を引例して、本会の発足を喜ぶとともに将来の発展を祈ると祝詞を述べ、更に重館長から美術館側としても協力を惜しまない旨の挨拶があり、創立総会は一時過ぎ終了した。

△井島教授の美術講演会

京大教授井島勉氏の講演会が友の会総会終了後、引つづき同会場に於て開催された。美術鑑賞の場合に於ける鑑賞者の心構えや鑑賞方法などについて、平易にしかも明快に説明され聴講者に多大の感銘を与えた。特に、友の会々員にとつては、発足当初の講演としてその内容が適切で、ま

ことに意義深いものがあつた。

△新制作展鑑賞会

十一月九日、友の会では会員所持者による新制作展の無料鑑賞会を開催した。新制作展は、日本画、洋画、彫刻建築の部門を有し当館で行われる展覧会のうちでも日展につぐスケールの大きなものだけに鑑賞者を喜ばした催しであつた。

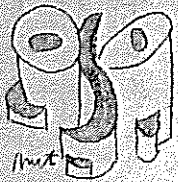


お知らせ

△ 友の会々員に！  
友の会では「自由美術展」と「ゲンビ展」を自由鑑賞することとなり、会員証を提示された場合、次の通り入場料の割引をして頂くことになりましたので、会員の方々は随時御鑑賞下さい。

自由美術展  
八〇円を四〇円に割引

ゲンビ展  
五〇円を三〇円に割引



画廊めぐり

△ 京都府ギャラリー  
(四条通御旅町南側)

11月  
京陶青年部作品展 (20日～22日)  
京都二紀クラブ展 (23日～27日)  
彫塑家クラブ展 (28日～3日)

12月  
京都彫刻アトリエ展 (5日～9日)  
平野秀一、山崎修彫刻展 (13日～17日)  
大淵陽一個展 (20日～24日)

△ 京都書院画廊  
(河原町通四条上ル西側)

11月

洛北高校美術部展 (16日～21日)  
山城高校美術部展 (22日～24日)  
美大陶芸科四回生作品展 (25日～)

12月  
由里溪個展 (1日～5日)  
前衛作家九人展 (6日～10日)  
三雲木版社画展 (11日～15日)  
浅田、中島、川村三人展 (16日～18日)

：編輯後記：

こんな小さなパンフレットでも、ズブの素人の悲しさ、御覧の通りの不体裁なものになってしまいました。今月の展覧会案内欄は、期せずして前衛美術コンプレードの形となりましたが、来月は「日展」一本です。「ニュース」も日展特輯号のようになりましょうが御期待下さい。なお読者の方々の御投稿を歓迎致します。

(重)

発行所 京都市左京区岡崎法勝寺町  
京都附帯美術館  
重 達 夫

発行日 昭和三十三年十一月十六日

京都市

美術

館

ニ

ユ

ウ

エ

No.2

# 日展

時 十二月十一日～一月八日  
(二十八日元旦は休館)  
於 京都市美術館

師走ともなれば、京都の人達は「もう顔見世と日展の季節になつたか」と口に出すほど、日展も京の年中行事の一つとして親しまれるようになりました。それは、明治四十二年京都展以来、文展帝展日展と名前こそ変わりましたが、殆んど毎年開催され、しかも多くの有力な京都作家が活躍している日本最大の展覧会という歴史がそうさせたのでしよう。また専門家の間では、日展は京都で見るといふことをよく云われます。東京では、二千点以上陳列されて鑑賞家の体力の限度を越しているのに比し、京都では選

抜された代表作品三百余点と京都作家の分を伴せた約百点という誠に手頃な点数であることと、会場が日本一の採光をもつ京都市美術館なので、日展鑑賞は京都が最適ということになるようです。今年の日展は、東京都立美術館が工事中なので、作品の大きさに制限を設けたため、京都でも例年のように才一室に入ると両側に立ち並んだ大作に圧倒されるような日展独特の雰囲気はや、薄いですが、各部とも作品が小さいだけに念の入った深みのある作品が多く親しみやすいとも云えましょう。また、今年の日展機構の点で議会で問題に

なり新聞紙上をにぎわしましたが、結局来年からは多かれ少なかれ変更をみることでしよう。そうした点からも、今日の日展は洵に意義深いものがあると思われまふ。

## 鑑査感想

★才一科(日本画)

審査主任 中村 岳 陵

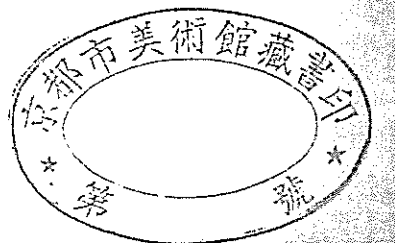
美術館増築による会場狭隘を予め想定のもとに本年は各科作品の寸法制限を設けてのぞんだ従来と異つて勢い堅長の形となつた為、構圖上困難な事だつたと思ふが、よくそれ等の条件を克服して良いものを創り出して、見るのを見受けたのは喜ばしい。扱一般に技術的水準と質の高まつて来た事と作品の傾向も密度を加へ漸次健康さを高めつつ

あるのを領取された事は何と云つても力強く感ぜられた。年々技術進歩し互に相伯仲近接して来たことは鑑査者上困難を加えた。また落ちた作品の中にも採上げたものが多々あつたが限られた壁面上取捨選択におのゝ苦しした。そのために陳列替に例年と多少数量の上相違があつて観覧に聊か不便な点があるかもしれないが之は明年度に訂正されることと思ふ。

★才二科(洋画)

審査主任 中村 研 一

出品総数千八百〇八点のうち五百三十二点を選び出しました。例年とそう大したちがいは認められませんが、今年に限り、美術館の大改造が行はれ、こんなふうに進歩しようとは今年度の計画の当初に於て豫期せず、



大ききなども六十号に制限するなどのことを致しました関係上、所謂ヴァリエーションにはかける所があるかも知れません。情調風趣を画いたものが多く、又質感を求めるせいか建築物が相不変多く、其他エキゾチスムを求めてか教会堂の絵などが多く見つけられました。人物画、裸体画などの減少も何かを物語つて居るのかも知れません。

鑑査は結局厳選になりました。不幸落選した人々も来年の御奮起を願いたい。

★才三科(彫塑)

審査主任 朝倉 文夫

今年は何年と違つて作品の寸法を制限したので、作家が一寸まごついたようだが、然しやつて見ると実物の長さの二分の一(容積八分の一)という小さい彫刻は寧ろ制作が容易で、何点も作つて見た人もある位で、これまでにない修練を得たようでもある。

作品内容も、従来の日展大

作に見られない趣を持つて居るようには感ぜられる。幸い建築工事が進捗したので、例年のような押せ、押せてない会場陳列をする事が出来ると思ふ。

★才四科(美術工芸)

審査主任 山鹿 清華

会場が狭くなるという予想から大きさに制限を加えた結果、皆制限一杯という方向に傾いたため大きさが一定したことが目につく反面、同じ条件の下に優劣が一目で判断出来るというところがいわれる。

昨年度から増加した壁面裝飾が、更に濃度を加えて現代建築と工芸の密接な関係を更に強化させた感がある。又従来からやがましき工芸が次々に減少してきて使うものより鑑賞への移行が次々に目立つて来た。

作品の傾向としては、広い視野に立つた国際性ともいふべきもの、単純にして力強いもの等造型の上にて過去に見られぬ進展性のあることは本年の審査

員の主張を示すものというべきであると思ふ。

★才五科(書)

審査主任 雙道 春海

才十三回日展に於ける才五科は昨年の増加率を遙かに上まわり四百八十二点の出品増加を見たのは国家文化興隆の一助ともなること、喜悅の情に堪えないものがある。

思うに戦後十年余を経て社会の人心に聊か安定を見たと共に静的感情の方面に向いつつあることを示す証左でもあるが更に出品の寸法を制限し而も書道が日展参加十年を記念し多少の新味をその運営上に加味して人心を新たにすることも亦相当の影響があつたとも考えられる。尚審査の方針は厳正公平を期したのは申す迄もないが会場狭隘の關係もあり一層の厳選を行ひ審査員一同遺憾なきよう細心の注意を払つて種々論議を尽したがい至極圓滿に終了したことを一同と共に喜ぶものである。

特選作家のことば

★題名「梅」(日本画)

猪原 大華

こゝ数年、どろ沼のような池を、好んで題材として描いて来ましたが、なにか、一見暗いようでも、鈍重なもの、その沈滞した中から底光るもの、あることに気づいてとても心をひかれいらしい、中にも唯一のより処としたわけですね。梅(日展作)も、これに繋がりをもつたものと云えましょう。一口に云つて選し骨格を通して、なにか素朴で精神的なものを表現したかつたのです。しかがつて画面の上の処理も自然に留意しながらも、出来るだけ簡潔な線を求め、色彩も限定して、どこ迄もなんでもない平常とも云へましようがそのすがたの中に自からの心を掴み取つたのです。なにか自からの苦悩を、其ま、出したかつたとも云えましよう。私はいま南面のもつ内面性に強く打たれて居ります。

略歴

猪原大華 本名(寿)  
明治三十一年二月広島県生れ。京都市立絵画専門学校卒業。京都市立美術大学勤務。展覧社に属す。大正十年才三回日展「群鶏」初入選。帝展、新文展に十三回入選。日展八回入選。昭和二十九年才十回日展「池」特選。本年才十三回日展「梅」特選白寿賞を受く。

★題名「静物」(日本画)

池田 道夫

日本画には元來静物画と言ふ面題はないが、今後主にこの面を追究して行きたいと思つてゐる。今度はコバルト系統に色を制限して描いて見た。

略歴

大正十四年十一月五日京都市生れ。京都市美術専門学校卒業。昭和二十五年才六回日展「工場」初入選。日展入選六回。本年才十三回日展「静物」特選、白寿賞を受く。

★題名「火口原」(日本画)

下保 昭

ぼくには夢が多い。空の雲を見ては夢を足もとの一塊の土を見ては夢を足もと一

略歴

昭和二年三月三日富山県生れ。富山県立瀧波中学校卒業。青甲社所属。黒潮会々員。昭和二十五年才六回日展「港が見える」初入選。昭和廿九年才十回日展「裏街」特選。昭和卅一年才十一回日展「異人坂」無鑑査。本年才十三回日展「火口原」特選、白寿賞を受く。

★題名「網船」(日本画)

沢野 文臣

何時も船着場や河端に面材を求めて居ります。今回もその連作ものです。てんま船や干船に船板をつぎ合せた棧橋と云つた

ものに何ともいいたくない素材と海の人達の生活までがにじみ湧いて来るのです。そうしたいイメージを基にして構想したのですが、画面のせまいせいもあり表現方法にもつと食足らぬものが制作の終頃になつて判り、どうにもならぬまゝに仕上げました。構成は直線を主に水影や網によつてリズムカルな美しさを求めました。中心に船小屋を配し色彩も極力単純化し、黒の線と銀白調の海に真沙朱の網が主で中心のアクセントをつける程度に朱と黄で効果を考えました。

略歴

大正三年九月廿四日山口県生れ。京都市立絵画専門学校卒業。東丘社所属。昭和十一年帝展「機関車」初入選。昭和三十一年才二回日展「淀の河州」特選。本年才十三回日展「網船」特選、白寿賞を受く。日展無鑑査。

★題名「蕨風」(蠟染)

岸田 宗三郎

いままで写生から入つて物象を圖案化して来ましたが、今回は全く写生を離れて水鳥の図

略歴

明治三十九年一月京都市生れ。京都市立美術工芸学校圖案科卒業。京都染色美術工芸会、生々会所員。文展、日展に十一回入選。才九回日展に特選。本年才十三回日展に特選、北斗賞を受く。

★題名「層窓」(工芸)

清水 洋

私の作品は重箱を重ねた様な花瓶です。本当は、この様に「積み重ね」と言うのではなくて、一体としてつくりたいと思つたのですが、私の考えに添わせるためには表現技法がおよそ困難なので、小さく切り離して輪ツパとして積み上げてみました。所謂花瓶ですので、別段説明も何もありませんし、又意圖をお話しする程の形のものでもありません。唯一パイに花を入れてみたいと言うだけのものです。

略歴

大正十一年五月愛知県生まれ。

京芸術大学卒業。清水六兵衛氏の養子となり、新工芸協会に所属。昭和二十六年日展初入選。以後七回入選。本年才十三回日展に特選。北斗賞を受く。

★題名「うたごえ」(工芸)

マント袖葉と青白色の顔料との対比の面白さを何かでやってみたいという日頃の念願でありました。それを「うたごえ」に記してやつて見たのです。粘葉、色調、形態、模様等から夢のような詩情を幾分でも汲み取つて載ければ私の想いは達せられるというものです。自分としましては、數理的に割り出して作つたものでなく(性に合はない)ぶつ付けにあるがまゝの情感を込めて出来上がり行く作品をいとほしみつ、ほれほれと楽しみつゝ作つて行つたものです。露出しの時の不安と喜び模様、形態、勿論粘葉にも不充足さは多い。けれど「いとしい奴」なのであります。

以上多分にウエットだが、これからは私はこの様にして制作して行く事でありましょう。

略歴  
大正十一年七月京都市生れ。京部高等工芸学校窯業科卒業。清水六兵衛氏に師事。京都陶芸家クラブ所属。昭和二十八年日展初入選。以後四回入選。本年才十三回日展に特選。北斗賞を受く。

科別	一般入選	無審査	総入選	申請数	入選数	内入	新選	陳列	京都陳列	展覧数
日本画	631	86	717	289	28	375	193			
洋画	1808	137	1945	532	81	669	140			
彫塑	288	91	379	185	25	276	82			
美術工芸	718	86	804	303	46	389	116			
書	1833	71	1904	694	292	765	75			
計	5278	471	5749	2003	472	2474	606			

お知らせ

★友の会々員に！ 友の会では「日展」開催を機会に自由鑑賞することとなり、会員証を提示すれば、随時無料にて入場出来ることになりましたので、ごつくり各自は鑑賞願いたいと存じます。

日展の沿革

日展(日本美術展覧会)の沿革はおよそ次の通りです。  
明治四〇年・文部省「文展」を創設日本画、洋画、彫刻の三科より成る。  
明治四三年「文展」京都展始まる  
大正八年・帝國美術院が設立されこの主催のもとに「文展」は「帝展」に改組される。  
昭和二年・工芸が新に参加して四科となる。  
昭和二年・帝國美術院廃止、芸術院設立と共に「帝展」は再び「文展」に改組される。  
昭和二年・才一回「日展」開催  
昭和二年・審が新に参加して五科となる。  
日展は今年十一月東京で開かれたのを始めとして翌年春の終りまで順次京都、名古屋、福岡、大阪と開かれて行きます。主催者は芸術院と日展運営会の共催で当京都展においては運営会と京都市との両者が主催します。出品者は次の通りです。  
芸術院会員  
参事(日展運営に参与する作家)

審査員

出品依頼(運営会から出品を依頼された作家)  
無鑑査(昨年度特選者)  
一般出品(一般から応募し入選した作家、入選率約四〇%)  
京都展の陳列総数は上記の表の通り、およそ六〇〇点、昨年より五〇点増加しています。これは東京会場が工事中のため作品寸法に制限があつたのでこれだけ余裕を生じたのです。

洋画材料 専門店

大地堂

左・田中園田町二九  
電話 吉⑦三三九三

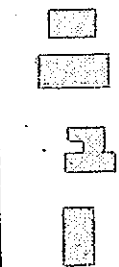
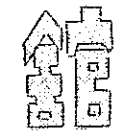
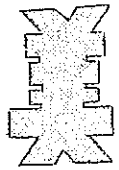
洋画材料 専門店  
色彩資料

かとう鴻業堂

東・東大路七条下ル  
電話 祇⑥一九七〇

発行所 京都市左京区  
岡崎法勝寺町  
京都市美術館  
発行日 昭三五年十二月十日

京都市



No. 3

△常設美術館の要諦

美術館友の会が出来て私共美術愛好家に一つの組織の出来た事は嬉しい事です。

京都は今、國の内外から文化都市として発展する事を期待されています。美しい風光、日本民族の残した貴重な美術工芸、建築等が京都には多く完全な姿で残されています。之は内外の観光客への大きな魅力です。本邦の遺産です。

この外に私共は京都に常設の美術館を持ち度いものです。私

共市民も、外部から来られた人も日本の最高の文化の蓄積と、現代の最高の芸術品が何時でも好きな時に見られたら如何に幸せな事でしょう。

謹賀新年

昭和卅三年新春  
京都市美術館

巴里やポストンとの姉妹都市を標榜し、東洋に於けるローマやヒレンツエの如き芸術水準を望むなら、もつと多くの人が美術に関心を持つ可きです。其処から美しい都市も伸び、個性あ

△大切に

児童画の教育

西田 秀雄

このころの展覧会の絵は、わからないというのをよく聞くのですが、同じように「このころのこどもの絵もわからなくなつた」と言われます。しかし、自分のお子さんの絵を見て「わかる絵」に安心されているお母さん方もおられるのではないかと感じます。

絵を見て「わかる」という意味は、絵がわかるのではなく、何が描かれているかがわかること以

外ではありません。絵は、風景や静物や人物をそのまま写しとる。いわゆる写生画だと思いついてゐる人々が如何に多いことでしょうか。

日本の美術教育の現状で、その主流はまだ写生画にあることは誠に恥ずかしいことですが、外国ではかなり以前に写生主義は卒業して新しい方法がなされていきます。新しい方法と言つても、それは方法よりも新しい目あてに基づいてゐるのです。「わかる絵」の教育目標は、目の前にあるものを上手に写す技術的なところに置かれて、いわば腕の修練であつたわけなのです。ところが、今ではそのような写す仕事は、写真機に委ねられ、都市で、写真機を有する家庭が四十九パーセントもあることが、何よりも雄弁に美術の新しい仕

事の面を物語つてゐるようです。先程の「わかる絵」は、実は写真機の代用教育であつたので、新しい絵の教育は「わからない絵」をかかせるのではなく、そのこどもの心を解放して、自分の生き方を自覚させる大切な教育になつて来たわけです。好きな色で好きなように……かかせる美術教育の目標は、自分の心にたずね、自分の眼をよりどころに表現して、ほんとうの自由を一人一人の内に培つて行くところにあるわけです。

ですから、古い技術教育に対して、人間を作る美術教育と言へるわけで、私たちがその苦受けた図画教育とは、全然質が異なるわけになります。こどもの心をこどもらしさに徹しさせる教育とも言えましょう。そしてこどもの時代に、こどもであり

得たら、大人の時代になつて莫の大人……人間性の豊かな人になり得るものです。親たちは、学校教育で、すぐ算数・国語或は理科・社会科などをひどく重要に考えますが、これらは大人への準備教育で、それも大切ではあります。こどもをこどもとして認める芸術教育は、より以上に重要であることを認識してほしいものです。結果として、こどもの自由に描いた絵の理解が、現代美術の理解に結びつくことは当然で、「わからない絵」を「わかる」ことへの近道が、実はこんな所に鍵があるのではないかと考えています。

（美術教育家 友の会々員）

△「描く楽しさ」  
中村茂一

農村はさておき、都会の生活は昨今何かと気や心を使う事が多くなり心身共に疲れ勝てありません。そこで其の疲れた心身を一転し休養するために色々と各自の趣味にあつた娯楽が必要になつて来ます。その一つに最近休日等カメラを提げて歩く人が増えて来ました。私も一時はカメラを提げてあちこちと歩き廻り野や山の春夏秋冬の姿にふれるのがこの上もなく楽しいものでありましたがカメラは要するに自然をそのままに表すものであつて感動を表して呉れない不満があります。その点絵画であれば大自然から受ける感動を自

分て工夫して満足のいく様に表すことが出来ます。こう云う訳で私も終戦直後から絵を描き始めましたが中々楽しいものでありません。そして自分の描いた画を額縁に入れて部屋にかけ、ゆつくりと眺めながら暖かいお茶でも呑むのも大へん楽しいことではありません。

しかし一人で画を描いてゐる内に誰れでも色々疑問が生じて来るもので、そう云う時、簡単に指導して貰えたらと思われれることがあるでしょう。そういう方々のために十年程前から市社会教育課と市民美術研究会が美術教室を開催しています。現在は堀川高校内で毎日曜日開いていますが教室ではいつも諸先生方の熱心な指導のもとに四、五十名の老若男女の会員が楽しく画を描いていきます（友の会々員）

「近代日本絵画の歩み」展  
 於 京都市美術館  
 時 二月一日～二十八日  
 主催 国立近代美術館・京都市美術館  
 後援 京都新聞社

当館では来る二月一日から二月二十八日まで、国立近代美術館との共催で特別展として「近代日本絵画の歩み」を開催することにいたしました。近代日本の日本画、洋画の名作を一堂に集めると共にその歩みを解説するパネルに工夫をこらしますので、必ず満足していただけるい、展覧会になること、思います。出陳予定の作家名を挙げますと次の通りです。  
 日本画：  
 池上秀敏 伊東深水 今村紫紅 上村松園 上村松篁 奥村土牛 小倉遊亀 小野竹喬 小茂田青樹

堅山南風 梶原純佐子 川合玉堂 鏡木清方 加山又造 菊池翠月 木島桜谷 小林古徑 郷倉千鶴 近藤浩一路 下山鏡山 杉山翠 竹内栖鳳 堂本印象 土田麦僊 寺崎広業 徳岡神泉 中村岳陵 中村貞似 西山翠嶺 西山英雄 野田九浦 橋本関雪 遠水御舟 稗田一穂 東山魁夷 福田豊四郎 前田青邨 三谷十糸子 村上華岳 安田靉彦 山口華楊 山口蓬春 山元春幸 山内多門 結城素明 吉岡堅二

海老原喜之助 岡田三郎助 萩須高德 金山平三 川口軌厓 川端実 岸田劉生 北脇昇 黒田清輝 小出楯重 小糸源太郎 古賀春江 児島善三郎 小杉未醒 小林徳三郎 小林和作 小山敬三 齊藤豊作 佐伯祐三 清水登之 鈴木信太郎 須田國太郎 辻永 田崎広助 鳥海青児 東郷青児 中川八郎 中沢弘光 中村善策 中村彝 中村琢二 中村不折 鍋井克之 野口謙造 野口彌太郎 長谷川利行 林 武 林 俊衛 原田直次郎 福沢一郎 藤島武二 藤田嗣治 前田寛治 牧野虎雄 松本竣介 三岸好太郎 三岸節子 南 薫造 森田恒友 村山槐多 森田元子 安井曾太郎 山口薫 山口長男 山下新太郎 山本芳翠 山本森之助 万鉄五郎 和田三造 脇田和 フォンタネージ ワーグマン

展覧会案内

△ 才25回独立美術展

(1月11日~26日 有料)

昭和五年、二科会中の最も前衛的な若い作家によつて結成され、創立会員には里見勝蔵、児島善三郎、林武、中山巖、高島達四郎、福沢一郎等があり、当時二科会よりや、左翼に位置していました。その後、昭和十四年にシュールレアリズムの色彩ある作家が離脱して美術文化協会を結成、今日ではフォーヴ(野獸派)の傾向が主となつています。現在では創立会員の外に、須田国太郎、野口彌太郎、小林和作、島海青児、海老原喜之助等そろそろたる現洋画壇の重鎮を擁していますが、それだけに一面老朽化して行く傾向をおそ

れ昨今漸く新傾向を採り入れ新人の育成に關心しているようです。京都作家としては須田國太郎をはじめ今井憲一、芝田耕、芝田米三らが活躍しています。出陳点数は約百五十点です。

観覧料 大人百円 学生六十円

「友の会」会員には割引の特典があります。

△ 才8回日吉ヶ丘美術工芸コース展

(1月25日~1月27日 無料)

市立日吉ヶ丘高校の美術工芸コースは戦前の市美術工芸学校の後身として日本画、西洋画、彫刻、圖案、漆芸、陶芸及び服飾の七科があり、同校発足以来毎学年末に生徒作品展を催してきましたが、今回は才8回目として約五百点の作品が出陳されます。専門教育を受けた若い学

生の作品は、すなおな新鮮味を感じさせてくれるでしょう。

△ 東邦書芸院書初展

(1月25日~1月28日 無料)

出陳点数 約五百点

京都アンデパンダン展開催

「アンデパンダン」とは独立していると言ふ程の意味ですが、既成の画壇から独立していることは勿論のこと且一人一人の作家が本来独創的である個性を自由に発表出来る場所を持つとうとして始まつたのがアンデパンダンの運動です。従来当地方に於てもアンデパンダン精神が横溢し、当市はこの趨勢に鑑み昨年は市主催として「京都アンデパンダン展」を開催し好評を博しましたが、本年も多数の力作の寄せられることを期待しています。

尚、会期中に評論家今泉篤男氏、瀬木慎一氏、井島教授らと出品作家との批評会を持つ予定です。

募集要項は左の通りです。

○ 会場 京都市美術館

○ 会期 2月11日~2月16日

○ 作品搬入 3月9日10時~4時

○ 出品料 2点まで三百円 一点増す毎に百円増 但し一人4点まで

○ 募集作品 絵画、彫塑

○ 作品搬出 3月16日5時~6時 3月17日10時~4時

洋画材料 専門店

大地堂

左・田中興田町二九 電話 吉⑦三三九三

洋画材料 デザイン 専門店

かとう鴻業堂

東・東大路七条下ル 電話 祇⑥一九七〇

発行所 京都市左京区 岡崎法勝寺町

発行日 昭三十二年一月十日

京都市

美術館 ニューズ

No.4.

「近代日本絵画の歩み」展について

京都市美術館長

重 達 夫

本展覧会は二月一日の開会以来、美術愛好家の注目を集めて、連日多くの方々に鑑賞して頂いていることは主催者側として誠にうれしいこととあります。今迄に、個人の作家の回顧展や一部の流派の展覧会は数多く行われましたがこの展覧会のように明治から現代につながる日本絵画全体の歩みを大体もれなくもうらした展覧会は京都は勿論のこ

と東京でもその例を見ないこととであります。個々の作家については、もれているものもあり、又その作家の真の代表作ばかりとはいえないものもありましょうが、明治の開國以来、怒濤のように押しよせた西洋文明に對し、わが國の伝統が如何に之に抵抗し、如何に消化していったか、そして今日に至る迄どのように成長して来たか。

純粋に絵画の様式の推移として、又は政治経済との關係に於て、或は社会、思想、風俗との關係に於て、それは觀る人の心によつて様々な興味を呼ぶこととありましよう。ここに、あらためて本展覧会の主旨を記載して、更に多くの方々の御鑑賞を期待する次第であります。

主 旨

近代日本絵画の意義は江戸時代につゞく一つの時代として、この時期に日本画の二大様式が成立したことであります。

明治の開國以来、急激に西洋美術の様式が流れこんできましたが、従来から続いていた東洋式の伝統絵画とは、その歴史や背景がかなり違つていたために、すぐには溶けあうことが困難でありました。しかしこの新様式と伝統の両面が対立し、交錯し、互に刺戟しあつたことが、今日の二大様式をまとめあげてきたといえるのであります。

洋画における課題は、まず近代西洋の印象派をはじめとする後期印象派、フォーヴィズム、立体派、超現実派、抽象派等の諸様式をいかに早く

適確に学びとるか、さらにそのやり方をいかに日本の風土や社会にあてはめて自分のものにするかということでありました。

黒田清輝、藤島武二ら明治の巨匠から安井曾太郎、梅原龍三郎らにいたる近代画家の業績にはこの課題と大きくまじめにぶつかつたあとが認められました。

これに対して、日本画の方は横山大観らの日本美術院が中心となつて、古典の新しい解釈による復興をめざし、つづく安田靉彦、小林古徑らによつて端正な新古典主義にまとめられました。これは東京の官展派を刺戟して川合玉堂はじめ多くの作家を生み、また京都画壇にも刺戟を与えて竹内栖鳳にはじまる近代京都

派の動きを呼びおこし、とくに国画創作協会の土田孝徳、村上華岳らはそのレベルを示す作家でありました。

今回の展覧会は以上のような日本絵画の歩みを、代表的な作家の作品によつて俯瞰しようとするもので、もちろんこの外にも省みるべきものが多いとしても明治以降の主要な課題と成果が要約して示されています。

今日以降の絵画が果してどこへ行くか、日本画と洋画の關係はどうなつて行くか、多くの問題がこの展覧会の中より示唆されれば幸いです。



作家のことば

会場から

△ 横山大観

画論に氣韻生物ということがあります。氣韻は人品の高人であければ發揮できます。人品とは高い天分と教養を身につけた人のことで、日本画の窮極はこの氣韻生物に帰着するといつても過言ではないと信じています。今の世に、いかに職人の絵が又その美術が横行しているかを考えた時、膚の寒さを感じるのほかに私だけではあります。

△ 鱈木清方

画工という呼び名を嫌う人が多くて、いつからか画家というようになったが、私のも

の、考え方が間違っているのかもしれないけれど、工の字が家の字に置きかえられるようになったつてこのかた純真な心もちを古い仕事場のどこかの棚に置き忘れてきたのではないかと、ふとそんなことを考えさせられることがある。

私が年令をとつて何かにつけて昔こいしくなつていっているか、この頃江戸から明治の中頃まで残つていた職人かたぎ名人かたぎといつたものから心から頭が下つて名工、良工と云われた人のたゞ芸大事と芸に打ちこんでいた。また打ち込んでいられた幸福な時代が懐しまれる。

△ 岸田 劍生

美術は自然の通りに描き又は造るという事ではない。ありのままという事は尊い事では

はない。

この点で私は自然主義又は印象主義の考えと一致しない。美術は「美」を描く事が第一である。だから最もよく美を語れるように構図する美術創作の一つの大切な要素であり又この事の能力が美術家の大切な能力の一つである。だから構図は自然そのまゝでなくともいい、それより「美」を主にせよ。

しかし、この事に困われ過ぎてはいけない。この事は何も構図の上の不自然さを敬ぶという事が美と接触した場合、その不自然さに不忠実になり、美の方に忠実になればいい。自然さと美とが接触するものが否かは美という事を知つていればわかる。

△ 安井曾太郎

自分はあるものをあるがままに現わしたい。追真的なものを描きたい。本当の自然そのものをキャンパスにはりつけたい。樹を描くとしたら風が吹けば木の葉の首がする木を描きたいし、歩くことの出来る道路を描きたい。自動車の通つている道をかくのだったら自動車の通る道をかきたい。人の住む事の出来る家、触れれば冷たい川、湖水の深さまでも現わしたい。人ならば、話し、動き、生活する人をかきたい。その人の性格、場合によつては職業までも充分現わしたい。

△ 福沢 一郎

私は抽象主義的形態を、私の表現として取り上げてみた事があまりない。それは現実

当館新所蔵品紹介

△ 竹内栖鳳作「雨」

明治44第5回文展出品

この作品は、第一回文展「雨霽」(現在出陣中)第二回「銅われたる猿と兎」第三回「アレタ立に」などに次ぎ第五

回文展出品作で、栖鳳の水墨山水の早期の作品として高い評価をうけているものです。雨に煙る柳や、炭小屋のある高瀬川下流五条辺りを写生したもので、初期の作品に見られた雪舟風の技法と四条派風の温醇な作風とがこゝでは渾然とつけ合つて漸く成熟した画風となつています。栖鳳の中期を代表する作品の一つです。

なお、この作品は上野で文展開会中「墨塗事件」で有名になつたもので、現在は勿論修復されています。昨年年末当館の新蔵品となつたもので、今月中旬から「歩み展」に出陳の予定です。

△ 小野竹喬作「冬日帖」  
昭和37年7回国展出品

これは華岳、麦僊、紫峰、らと国画創作場を設立した頃の、竹喬としては最も油ののり切つた時代の代表作です。はじめ西洋画に関心を示し、ピサロを思わせる傾向が強いが、のちに南画風の掃風をもつて新しい風景画を描きました。契機は「日本画で、近代人の眼で見た風景画を初めてかいたのは竹喬である」といつています。この作品は作者がヨーロッパ遊学から帰朝した直後、郷里岡山の風景を六枚の連作に描いたもので、その後文展時代から今日に至るまで、これ以上の作品は未だ見ないと云われているものです。昨年未当館所題すると

ころとなり、現在「歩み展」に出陳しているのは六枚中の二枚です。

お知らせ

△ 中国敦煌芸術展

(有料) 2月16日)

本展は古代中国とインド文化との交流の要地であり、いわゆるシルクロードにあたる敦煌の地に、西紀三六六年から十世紀にわたり築かれた仏教芸術、民族芸術の宝庫ともいふべき石窟内の壁画、彫刻の模写、模形二三〇点を出版しています。

△ 京都アンテナパングン展

(無料) 2月11日、16日)

当館主催の無鑑査展で、何

ものにも捉れない清新自由な発表の場です。中央美術界に進出しようとしている、未来につながる若い作家の意欲的な作品は、見る者に潑刺とした新鮮さを与えると同時に、現代絵画の混沌と将来の動向を考えさせてくれるでしょう。今泉篤男、井島勉、瀬木慎一、中村義一といった評論家と作家との懇談会を持つていることも本展の特色です。

△ 「近代日本絵画の歩み」

土曜講座

2月15日(午後2時) 於当館

「世界に於ける日本近代絵画の位置」

今泉篤男氏

2月22日(午後2時) 於当館

「随想、近代日本絵画」

井島 勉氏

△ 友の会々員へ

二月一日の観賞会は大変盛況で結構でした。会員の方々に末だ「近代日本絵画の歩み」を御覧でない方は土曜講座などの日を利用して是非御覧下さい。会員に限り、初回は無料です。二回目以上は四十円に割引されます。

洋画材料 専門店

大地堂

左・田中園田町二九  
電話 直 三三三九三

洋画材料 色彩資料 専門店  
デザイン材料

かとう鴻業堂

東・東大路七条下ル  
電話 祇 一九七〇

発行所 京都市左京区 岡崎法勝寺町

京都市美術館

発行日 昭和三十三年二月十一日

京都市

美術

美術館

ニュース

11

No.5

昭和32年度 展覧会の回顧

昭和27年美術館再開以来、当館では年々美術展を計画、実施して来ましたが、一方これら京都市主催のもの、外に種々の団体展、個展の申込みも年毎に増加の傾向にあります。これを本年度について見ますと、市主催のものは七回、団体主催のもの五十件近く、個展一を数えて居ります。そこで年度末を迎える機会にこれら三十二年度中の展覧会を振り返って見ますと凡そ次の通りです。

京都市(美術館) 主催の美術展

第九回京展

5/1-5/4

京展は周知のように京都市主催美術展覧会の略称で、沿革は昭和十年に第一回展を開いた市展に溯ります。戦后、時代の一新に伴い、市展の出品者を京都在住に限っていたのをこの制限を撤廃し、名称も京展と改め昭和二十年秋第一回展を開催し、以後昭和二十三年まで毎年春に実施されて来ましたが、所が折柄米占領軍による接収のため、昭和二十四年以來開催不可能になりました。昭和二十七年に至つて漸く撥収解除され、二十八年春に第五回展を復活、昨年春の第九回展に至りました。

が陳列された。出品者の中には多くの新進が顔を連ねていたのは喜ばしい限りであつたが、日本画審査員方の作品の見られなかつたことが惜まれる。麴市長賞受賞者は次の諸氏です。  
日本画 池田道夫、今井守彦、野々内良樹、三木文夫、山岸純  
洋画 伊東俊平、奥井章夫、大熊峻、小島清雄、長谷真次郎  
彫塑 井上平八郎、伊室重孝、上田弘明  
工芸 上原茂、繁原修丸、堂本泰三、三浦泉生、水谷三郎  
書 浅井素堂、岡本静庵、広瀬加陽

第十一回市民美術展  
この展覧会は日常職場や家庭において仕事に忙殺されている一般市民に作品発表の場を提供しようとするもので、勿論無鑑査に近いものなので、暑中にも拘らずアマチュア一の楽しい作品総数一八八点(日本画、洋画、彫塑)が集まつた。市長賞受賞者は次の諸氏です。  
日本画 陶山敦寿  
洋画 細口俊一  
彫塑 今田五郎  
石崎光瑤、中村大三郎、栗本一洋遺作展  
石崎(昭和22年度) 3/13-3/18  
中村(昭和22年度) 3/1-3/4  
栗本(昭和27年度) 3/1-3/4  
三氏は共に京都市立絵専元





岸本景春の各氏が依頼されてい

かくて市展の基礎も確立、昭和十八年の第八回展まで順調に毎年五月に開催せられていた。翌十九年戦況いよいよ悪化の一途をたどり社会情勢が急を告げる時期にも拘らず、特に平安神宮鎮座五十年平安遷都千五百五十年奉祝と銘うって盛大に開催、一部から四部まで通じて総計五百六十九点が集められたのは、文展が大きく規模を縮小して戦時特別文展とせざるを得なかつたことと思ひ合せると、誠に京都ならではのこととして、全日本美術界から多大の注目を浴びたことも当然であろう。だがこの奉祝展を以て市展は一段落を告げたのである。越えて昭和二十年八月遂に敗戦となり、世は不安と混乱の中

にあつたに拘らず、同年十一月から十二月にかけて敢然として開催することとなり、京都市主催美術展覧会すなわち「京展」と名称を改めて再出発したのである。しかしながら、この京都美術界の意慾にもかゝらず、敗戦による損傷は遂に当館にもおよび、昭和二十一年三月二十九日付を以て当館はアメリカ占領軍により接収せられることとなつたのである。そこで二十一年は美術専門学校、及び京都博物館、二十二年は丸物百貨店、二十三年は京都博物館を夫々会場に充てようか第四回まで維持して来たのであるが、二十四年からは経費等の都合でそれぞれ中止せざるを得なくなつてしまつた。一方日展を始め当館を使用していた団体展は他処に展覧場を探さねばならなくなり、

美術家の蒙むる不自由は増大する一方であつたので。当館から占領軍総司令部に対して接収解除を要請したことは勿論、一般市民からも返還要望の声が盛んに関係当局に寄せられたのであつた。その結果昭和二十七年になつて漸く接収解除となり、翌二十八年京展は復活、四月から五月にかけて一ヶ月にわたつて第五回展が開催された。なお、この五回展からは日展にならつて替が五部として参加することになり、この年は秋山公道、綾村坦園、園田湖城、谷辺橋南、日比野五鳳、森田緑山の諸氏が審査を依頼された。かくて京展は当館春季の恒例行事となり、今年五月こゝに第十回記念京展を迎えることとなつたのである。

ニュース

西山翠嶂画伯逝去

既に新聞紙上で報せられていたように、西山翠嶂氏は去る三月三十日、東山区八坂通東大路の自宅で永眠された。昨年夏頃狭心症を発病された後、一旦は再び彩管を揮つて白寿会に力作「雄心」を発表されるまでに健康を回復されていたし、殊に秋には文化勲章受章の榮に浴されたのであつた。しかるにこの度突然の悲報に接し哀惜の念に堪えない。故画伯の美術史上に残された功績についてはこゝで今更とやかく述べる必要はないけれども氏が京都の画人育成に尽された努力は実に大きなものがあつたし、わけても当館としては、昭

和八年当館始つて以来この方、評議員を依頼し、又近年は顧問を依頼するなど、今日に至るまで連年美術館運営について多大の御協力を得ていた訳であり、こゝに心から哀悼の意を表すると共に故画伯の冥福を祈る次第である。

以下に故画伯の略歴を掲げる。明治12年 京都伏見に生れる。

- 28年 第四回内閣勸業博覧会 初出品
- 32年 京都美術工芸学校卒業
- 40年 第一回文展「広寒宮」三等賞
- 41年 第二回「転迷開話」三等賞
- 42年 第三回「花見」褒賞
- 45年 第六回「青田」三等賞
- 大正3年 第八回「採桑」三等賞

大正4年 第九回文展「農夫」三等賞

- 5年 第十回「朱袴の女」特選
- 6年 第十一回「短夜」特選
- 7年 第十二回「落梅」特選
- 8年 京都絵画専門学校教授
- 9年 第一回帝展審査員
- 13年 画塾「青甲社」創立
- 昭和4年 帝國美術院会員
- 8年 京都絵画専門学校校長
- 19年 帝室技芸員
- 32年 文化勲章受章

する児童美術教室の開設を決定して、募集した処、予定数に近い三十六名の希望者があつたので四月十二日(土)に父兄同伴で児童の参集を願ひ、発会式を行うと共に直に第一回の指導に入つた。この日、午後一時半から美術館入口の美術教室(別棟)で式を始め、会長代理として重館長よりこの教室を理想的なモデル教室に育て、行きたいとの挨拶があり、続いて指導者西田秀雄先生より指導上細かい注意が述べられた。終つて、わざわざこの会のために馳けつけて頂いた京大井島勉教授から、保護者に対して、子供の「真実」を理解するために、美術を通じておかに人間性そのものを形成しようとする新しい美術教育が如何に大切であるかを説かれ、特に

友の会では、三月の役員会であつたから会員中に要望のあつた会員の子供さん方を対象とす

このことは斯界の第一人者である西田氏のような、指導者を得てはじめて可能であり、この教室の成果に大きな期待を持っているとの激励のお言葉を頂戴した。児童達はコンテを材料として折からの快晴に恵まれて美術館庭園で自由にのびのびと描いたが、この作品は裏面に行きとどいた批評が書かれ更に家庭との通信票によつて先生と保護者との緊密な連絡がとられて行く計画である。

友の会総会予告

友の会の春季総会を来る五月十日(土)に美術館で開催する予定です。いづれ確定次第総会通知で詳しくお知らせしますが、当日は京展開催中でもありますので鑑賞を兼ねたいと存しております。

展覧会めぐり

5月	1-14	第10回記念京展	当館展覧会予告
	22-31	第7回モダンアート展 モダンアート協会主催 絵画、彫刻、版画 生活美術 約三百点	
	25-30	第5回青陶会展 青陶会主催 陶器 約百点	
6月	7-8	第18回龍門社展 龍門社主催 書作品 約八百点	
	20-22	第38回平安書道展 平安書道会主催 書作品約千五百点	
	24-30	青塔社展 日本画	
	25-30	一九五八年度 グループ！ブ連合展	
4月	18-20	京都書院画展 油絵、石版画、銅 版画等約二百五十点	
	18-20	楠田信吾、田中喜一、 野村久之、岩田重義 四人展	
3月	3-5	同大クラマ画会 洋画展	
	4-7	京都市図画工作研究 会立休表現サークル会	
	8-10	アンファン美術 教育展	
	11-14	同大、立大、京大写真展	
5月	1-2	臨池会書展	
	9-13	テッサン展 (三輪良平他九人)	
	16-20	二科会京都作家展	
	23-27	新制作京都研究所展	
	30-6/3	陶芸家クラブ受賞者 八人展	
4月	18-22	ドネシヤン デウオウイ 子作品展	
	24-28	ビゾン染色工芸展	
5月	1-2	洋画材料 専門店 大 地 堂 左・田中関田町三九三 電話 吉⑦三三九三	
	9-13	洋画材料 デザイン 専門店 かとう 鴻業堂 東・東大路七条下ル 電話 祇⑥一九七〇	
	16-20	洋画材料 専門店 京都市左京区 岡崎法勝寺町 京都市美術館	
	23-27	洋画材料 専門店 京都市左京区 岡崎法勝寺町 京都市美術館	
	30-6/3	洋画材料 専門店 京都市左京区 岡崎法勝寺町 京都市美術館	
発行日	昭・三十二年四月八日		

京都市

美術館ニュース

「京展」終る

先号で京展の歴史を詳しく述べましたが、今回の応募作品一六三点は、どれも力作揃いでその内から六九七点が入選しました。これに無鑑査一八九点を加えた八八六点が全館に陳列され、第十回の京展は盛大裡に去る十四日幕を閉じました。

受賞作品については、夫々を御覧願ったことと思いますが、次に、各部から一点ずつ京都市で買上げた作品につき、その作家から所感を頂きましたので御紹介します。

× × × × ×

買上 作家のことば

△日本画 「坐像」

三輪良平

坐した二人の女性像をなるべく単純化して力強く表現したかった。画全体に重量感を持たせるため、できるだけ色彩を限定して描いてみた。最近の私の大きな課題として日本画の素材を生かすことと云うことがある。顔料の持つ美しき固性を生かすため、いままでの無意味な厚塗り混濁色などから脱し、簡潔な線のみつけ出して新しい絵画創造への大きな急務がある。

：略歴：

昭和四年十月二十九日 京都市生れ

京都市立美術専門学校卒業

晨鳥社所属 日展五回入選

第十二回日展出品作「裸像」

第十三回日展 無鑑査

京展 市長賞 二回受賞

△洋画 「静物」

福井 勇

熟れ切った柿、形も色も崩かいたす寸前の緊張した時間、じつと見つめていると、静謐な宗教的にさえ思える感情とやり切れないイライラした抵抗感が複雑な姿で心を占領していきます。乾燥した栗のいが、一列にころ

がつて固くなつた数個の栗の実のイーゼルの前に秋から冬を越えて春先きまで、例年のようにこんな姿でモチモチが並んでいます。そうしてこの冬の朝見る柿栗の姿が最も私の心をとらえるのです。

東洋画の要素を油絵に生かして、画面は出来るだけ平面的な表現にしようとしたが、西洋画のきびしい構成を背後にもつことに苦心しました。画面を二つに分割し、白の空間(余白)と対応させることによつて、柿栗の生命(人間の生命)を生かしたいと考えました。絵具が生乾きの時、フォルムを決定す

るため、折れたペインティングナイフのさきや釘で引つかき形を求めてゆき、白の部分は弾力あるナイフの先きで、稍々オートマチックに全体の画面が定着されるまで引きかきまわし、上下二面を緊密にするため、緑色の色で枠取りしてゆき、同時に安定感を求めました。

略歴：  
明治四十一年七月 綾部市生れ  
京都府師範学校本科一部卒業  
関西美術院修 旧二科会々友  
行動美術協会々員  
第二回京展「柿」第十回京展「静物」が京都市に賞上げらる。  
△彫刻「狗」  
上田弘明  
鍛錬だけが、自分を導く道と思つていきます。

略歴：  
昭和三年 奈良市生れ

京都美術専門学校彫刻科卒  
日本美術院院友  
△工芸 「磁器」  
久保金平  
時代を革する、洵に新しい思想としての仏教の移入は工芸の世界にも大きく反映したことは当然であります。そうした中であつてその目的に主要な役割を果しつゝ、漆芸は、つねに、狂渾、優婉、更に能く我が國風と民族性の顕現に最も適合した代表的所産で民族の精華であり、工芸品の粋とも云えるでしょう。工芸はいつの時代でも生活と共にあるもので、それぞれの世相をはつきりと読み取ることが出来、又出来るものであらねばならんと思ひます。随つて工芸の使命は実生活をいかに明快で豊潤な、より良きものにするにかゝつて居り、その本質的な根

もこゝにあるべきものと確信して居ります。  
私の作品「磁器」は漆の黒と金（錫）との配合による時代感覚、型体の簡素化による用途への安易さを考慮してのものです。  
略歴：  
明治三十五年十二月滋賀県生れ  
朱女会所属  
昭和三年第九回帝展初入選  
昭和三十年第十一回日展特選  
昭和三十二年第九回京展審査員  
昭和三十三年第十回京展  
△書 「漁父辞」 京都市賞上  
高本 忍一郎  
私は小さい時から絵が好きでしたが最近時間的余裕がないので書に転向しました。書のかき直しのきかない一発仕事は非常にやり甲斐のある仕事です。書を本気でやる氣になつたのは昭和二十九年ですから、まだ五年

目でも何も分らないと言ふのが本音です。私は上手な「字」あえて字と呼びます。それは日展始め書道展には、内容の空虚な、手先きだけの技術の浮ついた作品が意外に多いからです。……がそういう字作品には興味は持てません。書が芸術であるならば、技術以上に、其の内面を支える何物か、特に必要であると思ひます。私は技術を軽視しては適切な表現が出来ない事はよく知つて居ますが、技術だけでは書には到底なり得ず「字」に終つてしまふと思ひます。字が書になる為には是非作者の美に対する誠しい対決が必要です。どうすれば字を書き昇華出来るか、私の課題です。下手でも芸術的に良い作品を、と念じて居ります。

略歴：  
昭和三年 奈良市生れ

第十回記念賞 受賞者紹介

大正三年一月 京都市生れ  
昭和十二年三月 京都市立絵画専門学校卒業  
新文展「後園」初入選  
昭和二十九年より日展第五科に連続出品

△日本画 「河」  
山岸 純  
略歴：  
昭和五年京都市生  
京都市立美術大学卒業  
日展入選二回  
京展市長賞二回  
第十回京展 記念賞受賞  
感想：  
淡い群緑の空、暗緑色の大地、それを縫つて流れる河、三者一体となつて護成する宇宙の無限な深まりに神秘性を感じそのリ

アリテイを内面的方向に追求する事によつて象徴的世界へと高めたと思ひました。  
△書 「水の鳴り」  
浅井 素堂  
略歴：  
大正四年京都府生  
昭和三十年京展初出品  
昭和三十三年京展記念賞受賞  
感想：  
書は線の芸術であるが小生の作品をみて思うことは線にウルオイ、味ワイがない。線質の研究につとめたい。

展覧会案内

△モダンアート協会展 (五・二二―五・三〇 有料)  
モダンアートは二〇世紀の初頭フランスに興つた新しい芸術運動であり、今日ではあらゆる造型芸術の分野に指導的役割を大

きく果すに至りました。当協会はその芸術運動の目的に立脚し、より美しい美を創造、吾々の個性を最も率直に表現せんと我々に於てこの運動の實踐に最も力を注いで来た唯一の芸術団体です。芸術は常に民衆の裏付けをうる事が大切でありまして、伝統の自覚を継ぎ、時代の意識を醸に、その交叉点にこそ我々の「現代」があることを信じます。この点を重視しここに活動の必然性を明確に把握、この意識のもとに結集活動をつづけております。尚当モダンアート協会は一九五一年新芸術運動の必然性より、当時の自由美術協会を母体に各界の精鋭なる前衛作家を結集創立されましたより公衆団体として今日の隆盛をもたらしました。その間常に時代と社会の要求に応じ絵画彫刻の他に版画、写真、生活美術の各部門を設け、強力なる推進を計つていきます。会員は村井正誠、山口薫、小松義雄、中井幸一、朝妻治郎、周巖吉、矢橋六郎、中村真、勝呂忠、広井力等、四十名、会友七十名を擁し、京都在任会員は熊倉順吉、本野東一、藤本能道会友四名です。尚京都展には各部門の作品約二五〇点が陳べられます。(熊倉 順吉)

△行動美術京都作家展 (五・二四―三〇 有料)  
「昭和十九年、私たちの所屬していた二科会は解散した。それは当時の切迫した時局の止むなき圧力に加えて、二科会の三十年の久しい歴史は会の人工的内容が、ようやく一つの限界に達していたので、その光輝ある伝統と業績を尊重する意味で全会員で終止符を打つたのである。

終戦直後一部の旧二科会有志で再建が提起されたが、私たちはその空気を潔しとせず、かつての戦いの日にも画家としての矜持をもつて絵筆を拠たなかつた生活に結ばれた美しい友情と意欲と信頼を感じたもののみによつて、二十年十一月行動美術協会を発足したのである。」と九名の創立委員は記している。このようにして生まれた行動の創立委員の一人である伊谷賢威や、伊藤久三郎、福井勇ら京都在住者が相次いで会員となつた関係上、いち早く研究所を開き行動美術の京都に於ける活動は目ざましく数多くの新人を新界に送りだした功績は大きい。今回の京都展は、大阪で好評を拍した全関西展の京都版ともいふべきもので行動京都作家の力作一二〇点で、期待されている。

△背陶会展  
(五二五—三〇 無料)  
背陶会は昭和二十六年、楠部彌次氏を中心にして結成された

講演会開催!!

講師 モダンアート会員 村井正誠氏  
時 五月二十四日(土)  
所 京都市美術館

モダンアートのやさしい解説をお願ひしております。村井氏は自由美術協会、モダンアート協会の創立者の一人で、現代絵画のベテランです。又当日は行動京都展の初日でもありますのでお誘い合せの上打ち揃つておこし下さい。(午後二時から)

陶芸家の研究団体であります。当館に於て開かれるのは今回が初めてですが、東京などでは、これまで既に数回にわたつてその成果を発表しています。

陶器、花瓶その他約百点が展覧されています。

「友の会」だより

会員各位に御通知の通り五月十日午後友の会総会を開催し、会則の一部改正、三十二年度会計報告、事業報告、本年度事業計画を夫々原案通り承認しました。本年度の事業計画としては、

既に発足した西田秀雄先生指導による児童美術教室や、おとなを対象の美術教室、見学会、実技講習会、列品講座、講演会等と多彩な行事が実施されようとしていきます。

又、本年度役員の出選は、会長、委員共に前年度の方々に再度おせわ願うこととなりました。

モダンアート展(五二五—三三三) 行動京都作家展(五二四—五三〇)

は、「会員証提示」により料金割引(半額)がありますから御利用下さい。

先般実施しましたアンケートは、多大の御協力を得て貴重な資料を得ました。深謝と共に今後の御期待をお願いいたします。

大地堂

左・田中調田町二九  
電話 吉三三三九三

洋画材料 専門店  
色彩資料 専門店

かとう鴻業堂

東・東大路七条下ル  
電話 祇(6)一九七〇

発行所 京都市左京区 岡崎法勝寺町  
京都市美術館

発行日 昭三三年五月二十一日

京都市 美術館 ニュース

No. 8

初心者に必要な 絵の道具

絵を見ることも楽しいことですが、絵を描くことは、或はそれ以上に楽しいことも知れません。絵の好きな友の会会員の中には、すでに楽しみで描いている方もあります。が、又、描けたらどんなに楽しいだろうと思ひながら、自分は小さい時から絵は下手だし物の形も満足にとれないだろうと尻込みしたり、又、描いてみたいのだが材料を買つたりするチャンスがなくて、ついそのままになつていくという方も随分多いのでは

ないでしょうか。趣味でやることで、上手下手など問題にせず思い切つてふみきられたらどうでしょう。自分でやってみると、鑑賞する場合にも一層深い興味がわいてくるものです。

ところが、さて手をつけてみようという段になつても道具はどんなものを用意したらよいか見当がつかぬことがあります。ようから、必要最少限の材料の御紹介を簡単にしましょう。

◇水彩画

絵具 水彩絵具は、顔料にアラビヤゴムとグリセリンを媒剤に用いて作つたもので、水にとける。色が透

明なのを利用して、何度も色を置き重ねて、微妙な色合いを出せるのが特色です。尤も現今では不透明水彩というものもあります。

黄 カドミウム・イエロー 濃淡二種あり (60)

イエロー・オーカー 黄土色 (25)

朱 パーミリオン (100)

チヤイニーズ、フレンク、オレンジ等がある

赤 ローズ・マダー (40)

カーマイン (40)

紫 コバルト・ヴァイオレット (100)

青 コバルト・ブルー (50)

緑 ヴェリジャン 緑の中では最も重宝 (50)

コバルト・グリーン (50)

エメラルド・グリーン 見た所非常に美しいが混色によつて変色することがあるから単独で使う方がよい。 (40)

クローム・グリーン (25)

茶 ライトレッド

所謂ベンガラ (25)

ローアンバー (25)

パントアンバー (25)

こげ茶色 (25)

黒  
アイボリー・ブラツク (25)  
チャイニーズ・ホワイト (25)  
たくさん書きました、  
初心者には十二色箱入(三百円位)になったものが便利でしょう。

筆

水彩用の筆は普通丸筆で太さは色々ある。穂のつけ根のしかりしたのを選んで、二三本用意しておくと色を濁らすことが少なくてすむ。(20~100)

パレット

ブリキ製エナメル塗とホロー引きとがあるがどちらでもよい。パレットに絵具を出す場合には、白から黒まで明るさの順に並べておくとも色が濁らせることが少なくてすむ。(80~250)

野外でかく場合には金属製の水筒をかねたものが携帯にも便利 (120)  
水のあるところなら罐詰の空罐などありあわせのものでよい。

油

絵具  
油絵具は水彩のそれとは違つて、顔料をアマニ油またはケシ油、テレピン油で練つたもので、これを解くには後で述べる溶かし油を用いる。色の種類は水彩絵具以上に多く、おまけに沢山のメーカーが品質の向上を競つている。色は次に挙げるように大体水彩絵具と同じような標準で選べばよいが、ニューブの蓄えとつてみて練りが余り軟らかつたり顔料と油が分離

白  
シルヴァー・ホワイト (160)  
シルヴァー・ホワイトは混合によつて変色することがあるがこれにはその心配がない (150)  
濃度に幾種類もある  
黄  
オカドミウム・イエロー  
クローム・イエロー (55)  
クローム・イエロー (55)  
オイエロー・オーカー  
天然土壌を原料とし古来用いられている。安価でしかも重宝。堅牢 (50)  
レモン・イエロー (80)  
ネーブルス・イエロー  
便利そうな色だがなくてはならぬという色ではない。 (70)

赤  
カドミウム・レッド  
濃淡数段階あり。堅牢 (350)  
クリームソン・レーキ (80)  
デイープ・マダー (90)  
ローズ・マダー (90)  
茶  
ライト・レッド (50)  
酸化鉄を原料にした堅牢な茶色。イエロー・オーカーと共に古くから使われてきた。  
ロー・シエナー (45)  
天然土壌が原料で堅牢  
デルバント・シエナ (45)  
ローアンバー (45)  
バントアンバー (45)  
緑  
ヴィリジアン (130)

雑然と色名を挙げたので初心者には要領を得ないかも知れませんが、描く為には必ず最少限必要なのは○印の十色位。△印はそれ以外の使いよい色であるにこしたことはありません。

木製。親指をさし入れてみて持ちよいのを遊ぶ。使い初めには予め溶き油のリンシードかポピーを布にしめて万遍なく拭き、板に油をなじませる。パレット上に絵具を並べるのは水彩の場合と同様に明るさの順に並べる。使つたあとをそのまま放置すると絵具は固つてしまふからパレットナイフで取除いて掃除しておくこと。 (150以上)

溶き油

揮発性のもの(ペトロール、テレピン)と、乾性油(リンシード、ポピー、ウォルナットオイル)とがある。揮発性油はねばり気なくさらさらして乾きが早い。油絵具特有のつやは失われる。乾性油は揮発性油程筆運びが軽くゆかないが、絵具のつやを残す。従つて最初のうちはテレピンとリンシードを半々に混ぜて使つてみるのがよい。(50~100)

帆布は膠かグリセリンの下塗りをして上に油性塗料を塗つたもの。これを木枠に張つて使う。型にF、P、Mの三種類あつて、Mが最も細長くP、Mの順に正方形に近くなる。大きさはサムホールから三号、四号と順に大きくなる。スケッチ板(4号、70円)という板も簡単であるが、普通、初めは6号や8号位が適当。大きさと値段を一覧表にすると、

- 深みのある美しい緑。結晶統の中では最も重宝な色で堅牢。 (30)
- コバルト・グリーン (30)
- クローム・グリーン (55)
- △カドミウム・グリーン (130)
- エメラルド・グリーン (80)
- テール・ヴェルト (60)
- 青  
コバルト・ブルー (50)
- 所謂空色。濃淡三種類ある。堅牢。 (70)
- ウルトラマリン (70)
- 濃い青色
- プルシアン・ブルー (50)
- 藍色 (50)
- 紫  
コバルト・ヴァイオレット (250)
- 黒  
アイボリー・ブラツク (60)

黒にはこの他に二三種あるが、これが一番よく使われる。(60)

筆

豚毛と貂毛とがある。前者は硬く後者は柔い。丸筆と平筆とがあり、太さは様々。色を濁らせない為には、や

油

金属性蓋付で、持ち運びに便利ないようにできている。

<p>深みのある美しい緑。 系統の中では最も重 宝な色で堅牢。 コバルト・グリーン (130) クローム・グリーン (55) △カドミウム・グリーン (130) エメラルド・グリーン (80) パレット テール・ヴェルト (60) 青コバルト・ブルー (50) 所謂空色。濃淡三種程 ある。堅牢。 ○ウルトラマリン (70) 濃い青色 プルシアン・ブルー 藍色 (50) 紫 コバルト・ヴァイオレット (250) 黒のアイヴォリ・ブラック 黒にはこの他に二三種あ るが、これが一番よく 使われる。 (60)</p>	<p>雑然と色名を挙げたので初心 者には要領を得ないかも知れ ませんが、括弧にまず最少 限必要なものは○印の十色位。 △印はそれ以外の使いよい色 であるにこしたことはありません。 せん。 パレット 木製。親指をさし入れてみ て持ちよいのを選ぶ。使い 初めには予め溶き油のリン シードかポピーを布にしめ して万遍なく拭い、板に油 をなじませる。パレット上 に絵具を並べるのは水彩の 場合と同様に明るさの順に 並べる。使ったあとをその まゝ放置すると絵具は固つ てしまうからパレットナイ フで取除いて掃除しておく こと。 (150以上)</p>	<p>溶き油 揮発性のもの(ペトロール、 テレピン)と、乾性油(リ ンシード、ポピー、ウォル ナットオイル)とがある。 揮発性油はねばり気なくさ らさらして乾きが早い。が、 油絵具特有のつやは失われ る。乾性油は揮発性油程筆 運びが軽くゆかないが、絵 具のつやを残す。従つて最 初のうちはテレピンとリン シードを半々に混ぜて使つ てみるのがよい。(50~100)</p> <p>筆 豚毛と貂毛とがある。前者 は硬く後者は柔い。丸筆と 平筆とがあり、太さは様々。 色を濁らせない為には、や</p>	<p>カンバス 麻布は膠かグリセリンの下 塗りを施した上に油性塗料 を塗つたもの。これを木枠 に張つて使う。型にF、P、 Mの三種類あつて、Mが最 も細長くP、Mの順に正方 形に近くなる。大きさはサ ムホールから三号、四号と 順に大きくなる。スケッチ 板(4号、70円)という板 も簡単であるが、普通、初 めは6号や8号位が適当。 大きさと値段を一覧表にす すと、</p>
---	--	---	--

<p>白 パインドシエナ (25) 以下で アイボリー・ブラツク (25) チャイニス・ホワイト (25) たくさん書きました。が、 初心者は十二色箱入(三 百円位)だったものが便 利でしょう。 筆 水彩用の筆は普通丸筆で 太さは色々ある。穂のつ け根のしかりしたのを選 んで、二三本用意してお くと色を濁らすことが少 なくてすむ。(20~100) パレット ブリキ製エナメル塗とホ ーロー引きとがあるがど ちらでもよい。パレット に絵具を出す場合には、 白から黒まで明るさの順 に並べておくとも色を濁ら せることが少なくてすむ。 (80~250)</p>	<p>外でかく場合には金属 製の水筒をかねたものが 携帯にも便利 (120) 水のあるところなら雑話 の空器などありあわせの ものでよい。 ◇油 絵 油絵具は水彩のそれとは 違つて、顔料をアマニ油 またはケシ油、テレピン 油で練つたもので、これ を解くのは後述べる 溶かし油を用いる。色の 種類は水彩絵具以上に多 く、おまけに沢山のメー カーが品質の向上を競つ ている。色は次に挙げる ように大体水彩絵具と同 じような標準で選べばよ いが、チューブの蓋をと つてみて練りが余り軟か かつたり顔料と油が分離</p>	<p>しているようなのは避け た方がよい。 白 シルヴァー・ホワイト (60) ○ジング・ホワイト シルヴァー・ホワイトは 混色によつて変色する ことがあるがこれには その心配がない (50) 黄 ○カドミウム・イエロー 濃度に幾種類もある (50) クローム・イエロー (55) ○イエロー・オーカー 天然土壌を原料とし古 来用いられている。安 価でしかも重宝。堅牢 (50) レモン・イエロー (80) ネーブルス・イエロー 便利そうな色だがなく てはならぬという色で はない。 (70)</p>	<p>朱 ○ヴァーミリオン (180) 数種類の色があるが高 価な割に発色の冴えた 良質のものは仲々見当 らない。 赤 カドミウム・レッド 濃淡数段階あり。堅牢 (350) クリムソン・レーキ (80) ディープ・マダー (90) ○ローズ・マダー (90) 茶 △ライト・レッド (50) 酸化鉄を原料にした堅 牢な茶色。イエロー・ オーカーと共に古くか ら使われてきた。 ○ロー・シエナ (45) 天然土壌が原料で堅牢 △バイント・シエナ (45) ローアンバー (45) バイントアンバー (45) 緑 ○ヴィリジアン (130)</p>
--	--	--	--



ペルシアには紀元前四千年頃から文化が開け始めた。中でもスサはバビロニア平原東端の丘陵地に位置し、バビロニアと深い関係を持ち、前三千年頃からバビロニアと平行して、急速に文化が発達した。この時期を代表しているのは、スサ出土の陶器（前二五〇〇頃）、ルリスタン出土の青銅製工芸品（前二五〇〇年頃）、テベ・シアルク出土の陶器等である。ルリスタンのものは青銅製の馬具、剣、装身具などで、羊、山羊、馬等の動物模様が生々としていて、鋭い剣、くつわ等の馬具を見ると、これを使つた民族が、単に遊牧民と言うよりもかなり戦斗的な騎馬民族であつたらうと考えられる。戦斗用の鋭い斧や、棍棒の頭、等もある。

器に特徴がある。山羊や牛の模様も面りなが長い嘴のついた器形がこれついている。象牙やテラコッタ、女人像もある。

☆ アカイメネス王朝時代（前五五〇—前三三一）

フアルス地方出身のキユロスは前五五〇年頃ペルシアを統一し、さらに小アジアやバビロニアを降し、西アジアに広大なペルシア帝国を打ちたてた。この王朝は二二〇年続いたが、この間、ペルシア人はすぐれた感覚をもつて、メデア、アツシリヤ、バビロニアから得た美術上の遺産を生かし、又速くギリシア、エジプトの美術をも学んで、総合的な性格の美術を創りあげた。この時代の遺物は何と言つてもペルセポリス宮殿の遺構がその代表であるが、又、クセルクセス王を称える銘文入りの黄

金の鉢を始めとする、玉装耳飾、七宝耳飾、指環つき手甲等貴金屬製品は当時の宮廷生活のきらびやかさを忍ばせるのである。しかし、アレキサンダー大王の東方遠征の際、ペルセポリスはその兵火にかかつて灰燼に帰し、ここにさすがのアカイメネス王朝も滅亡する。

☆ パルティア王朝時代（前二五〇—一二六）

アカイメネス王朝滅亡後はしばらくアレキサンダーの後継者であるセレウコス王朝が続くが、やがて前三世紀の半ば頃にパルティア人が王朝を建てこれにとつて変る。しかし彼等には芸術的天分がとほしく、独創的なものは少く、ギリシア圏の美術と東方美術との折衷様式を示すに止つてゐる。

☆ サイサン王朝時代（二二六—六三六）

三世紀の始め、古代ペルシアへの復古運動が勃興し、アカイメネス王朝の後裔とされるアルダシール一世が出てパルティア王朝を亡し、サイサン王朝を建てた。イランは再び統一され、大いに繁栄し、東ローマ帝国と対立する強国としての地位を築くに到つた。サイサン王朝が芸術の分野に於て果した歴史的な役割は極めて大きい。即ち建築の部門では、丸天井のドームをなす形を創始して、イスラム世界の回教寺院建築の特色を形成する源となつた。又最も注目されるのは工芸の分野であつて、盃、皿、水瓶などの金屬細工を始め織物類はそれ自身高い価値をもつてゐると共に、裝飾模様等の意匠は東西の遠隔の地にま

でも伝えられて、名地で工芸製作活動を促したのである。話を極東に限ると、サイサン王朝時代の日本は古墳文化時代及び飛鳥時代に当り、ペルシア文化の波は次の奈良時代に入るやばるばる大陸を越えて日本にまで到達したのであつた。日本との関係ではペルシア美術史のなかで最も重要視される時代である。

☆ 回教時代（六四一以後）

六四二年サイサン王朝の軍隊は、回教徒のアラビア軍に敗れて王朝が亡んでから、ペルシアの文化は回教文化の一環をなすこととなつた。しかしペルシアは根本的に変貌したのではなく、永きに渡つて培われたペルシア文化は回教への改宗によつてもその創造力を枯渇されることはなかつた。この時代を代表するのは回教寺院建築及び写本

の挿絵である。特に後者は十六七世紀頃を頂点として繊細優雅なミニアテュールを今に遺してゐる。陶器も又盛んであつた。

△ 用語解説

—主としてペルシア美術に関する—

三彩（さんさい）

緑、黄、白三色で彩つたヤキモノを言う。焼きの温度は比較的低い。最も有名なのは唐三彩で、中国の唐時代に墓に副葬する目的でつくられたもので、人物、鳥獸、器具等種種の形のものがあり、唐時代の豪華な貴族生活を今に伝えている。わが国では正倉院三彩がよく知られ、唐から技術を学んで作つたものだと言われている。唐の影響はペルシアにも及び、ペルシア陶器の中には明かに中国の三彩に学んだと考えられるものが見出

される。

七宝（しちほう）

金屬面に凹味をつくり、そこに鈹物質の発色剤を埋め込み、熱して固着させたもの。金、銀、めのう等七宝の美しさを備えているという意味で名づけられた。この技術は古くエジプト時代にはじまるが、東洋にも伝えられた。

漆胡瓶（うるしのこへい）

胡瓶と言うのは首を動物に象つた把手のある瓶で、専らペルシアで行われていた。正倉院の御物の一つである漆胡瓶は、形態をペルシアの壺に似せて漆を材料として作つたものである。

象嵌（ぞうがん）

金屬、陶器、木材等の材料に他の材料を埋め模様や文字をあらわす、工芸裝飾法の一。

テラコッタ

良質の粘土を素焼にした土器類。イタリア語で焼いた土の意味。最も原始的な彫刻で、古い時代の泥像とか土偶とか呼ばれるもの。中国の俑（よう）日本の埴輪等いずれもテラコッタである。

テベ・シアルク

イラン中部にテベ・シアルクと呼ばれる丘があり、こゝで大きな先史時代の遺蹟が発見された。中東地方における最古の文化を今に伝えるものとして注目されている。イラン近辺の地図を見るとテベ・シアルクとかテル・サラサイトとか言つた地名が沢山あるが、テルとかテベとか言うのは小さな丘を意味する言葉で、当時の家屋は日乾煉瓦で出来ていたので、それがくずれると

そこだけ少し高くなる。その上に又家を造る。これを繰返しているうちに、小高い丘が出来、従つてテベには幾つもの時代が重なつて居り、土に混じつて器物が堆積している。発掘して行くことによつて文化の発展を知ることが出来る。

ペルシア

ペルシアの名は、アリアン民族最古の帝国と言われるアケメネス朝の發祥地であるパルサ地方をギリシア人がペルシスと呼んだのに由来している。現在はフアールスと言う地方名になつて残つて居る。イランと言う正式国名の決まつたのは一九三五年のこと、それまではペルシアの名で知られて来た。

ペルセポリス

古代ペルシアのアカイメネス王朝時代、ダリウス一世以来歴代王が築いた宮殿。イラン南部にある。アレキサンダー大王によつて殆んど破壊されてしまつて居る。ペルシス（ペルシア）のポリス（都市）と言う意味をもつ。

ミアテュール

写本の挿絵のこと。エジプト始め近東各、ヨーロッパ等に盛に行われた。ペルシア、インド、トルコ等イスラム世界では一三世紀から一八世紀にわたつて独特の發達をとげた。非常に繊細緻密で美しいものである。

美術講座  
開設お知らせ

夏期講座と実技指導を同封御案内のようにそれぞれ実施いたします。要項を御熱読の上多数御参加下さるようお待ちいたします。

○重館長をリーダーにした去る二十八日の「絵を初める」座談会は、館長から懇切な解説、指導があり、活潑熱心な質問も出て小人数ではあつたが有意義な催しになりました。

○その時初心者の実技指導もぜひしてほしいとの御意見も出ましたが、同封御案内のようになつて実現し、今後はこのこと。又、引続いて美術館では井島先生ほかその道の大家による講座が開設されることになりました。

○美術館夏期講座の参加希望者が、止むを得ず振替貯金で送金されるときは、振替手数料

25円を加えた金額（会員の方は125円）をお送り下さい。

○児童美術教室も西田先生の指導をうけて、ぐんぐん成長を続けており、遠く北海道などからも参観がある程の氣です。

◇ 展覧会予告

8/17 水明畫道展

8/18 1/10 桜学校美術展

◇ 市民美術展開催

会期 8/19 1/4

会場 当美術館

内容 一般より日本画、洋画、彫塑を募集

搬入 八月十七日（日）当館へ。

洋画材料 専門店

大 地 堂

左・田中 関田町二九  
電話・吉⑦三三九三

洋画材料 子等イン  
色彩資料 材料 専門店

かとう 鴻業堂

東・東大路七条下ル  
電話・紙⑥一七九〇

発行所 京都市左京区 岡崎法勝寺町 京都市美術館

発行日 昭三十二年七月十五日

京都市  
美術館  
ニュース  
No.10

美術館夏期講座

当美術館では去る八月一日から五日間に亘つて初めての試みとして夏期講座を実施しました。講師の先生方の協力を得て第一回にしては仲々豊かな内容のものとする事が出来ました。今回はその内井島、蓮実両氏のお話を係で要約して掲載することにしました。両先生とも当日は多数のスライドを使用され、詳しい解説を加えられたのです。それを全部省いて更に要約したのでは講師の意図の伝達を不完全にするばかりですが、それでも尙読者はそこから一考を要す

る問題を拾われること、思ひます。黒田、島田、及び河本先生の方は次回に廻らすつもりです。

美術概説

京大教授 井島勉氏

はたゞ見さえすればわかる。誠に簡単な芸術である。所が餘り簡単なのでかえつて間違つた見解が生じて来る。一般に絵がわからないと言う人は相当地に多いし、かなりの学識を身につけて芸術の研究を志す程の人の中にすら、文学はわかるけれども絵は理解出来ないと言ふ人が居る。しかしこれは誠に不思議なこと、言う可きであつて文学を理解しようと思えば先ず

言葉がわからなくてはならぬし、更にその芸術性を味うとなれば絵を見るのよりどれ位難しいか知れない。斯様な取違えが生じるのは、鑑賞の態度に原因があるのだと思ふ。

日

本人には古来書画骨董趣味が根を張つていて、今日でも自分の眼で素直に作品の美しきを見付けようとしないうで、物識りの説明に頼つたり、由緒来歴を基に於て作品の価値を決めてしまふ悪い癖が残つて居る。今後は、この誤つた態度を改め、公平な眼で鑑賞されたいと思ふ。

芸

術は無限に多様である。人類の芸術史は人類発生

以来の歴史の中では極く短い期間にしかならないが、その間にも殆ど無数の美術品を遺して来た。しかしそれらは皆一つ一つ違つていて同じものが二つあることは決してない。時代、民族、風俗を異にする美術は違つた形をとるし、たとえ同一社会内に於ても全く違つたものが生れる。同一社会内で同質材料が使用されているにもかかわらず結果がまるで違つて来るのは、美術と言うものが芸術家一人一人の自由意志に基いて成り立つものだからである。社会と言うものはとかく人間の自由を振舞を束縛するような働きをする。しかし眼をもつて居る人間は、

何かある対象に接すると自分は生きてゐることをまざまざと自覚し日常の社会生活ではどこかに忘れ去つていた生命の感動を覚えることが出来る。この生命の感動を意識することが即ち美を意識することだとも考える。山をながめて自分の偽りない生命を思い浮べた時、山の美しさに見出されたのである。そして芸術家と言うのは、社会の束縛を恐れないう偽りない命に燃る勇氣をもち、他の人にも自分の感動が伝えられるよう遺憾なくカンパスに描き得る技術を持つた人のことである。これは決して特別の才能を意味するのではない。所で命の内容は一人一人の間によつて異なる。又時代によつても命の中味は變つて来る。等しく比叡山に向うにしても、そして美しいと自分で確信をも

てるものを描こうとする意志が等しく盛んであつても、命の内容が違ふのであるから作風が違つて来るのはあたりまえである。ここで美術を鑑賞するためには、作品一つ一つはそれなりに作者個人の命を物語り、社会を物語つてゐる事実を心にとめておく必要がある。鑑賞の段階を一步進めて学問的に理解しようとする場合には尙更のことで、美術と政治、経済、風土等美術以外の世界とを単純な因果関係で結びつけてしまうと結果はきつと間違つた解釈を引出すことになる。作者は現実に美術以外の世界と分ち難く結びつけられてゐるけれども、彼をして芸術作品を作り出させた所以のものは誰のものとも取替へることの出来ない彼一人の芸術意

志であつたのだ。彼の作品はそれなりに独自の美しさを持つてゐる。本當の鑑賞とは、彼の作品を見ることによつて、忘れていた自分の生命をまざまざと思ひ出し、それに感動を覚えることである。それが、彼の作品に美を見出したと言ふことなのである。から、美を見出すのはいと容易いことだと言へる。自分が生きてゐることに喜びを感じ、感動を覚えることが出来るか否かにかゝつてゐる。

作 家の方でも見る方がしつかりしないと、仲々本當の美術を作つてくれない。私達美術館に通うものが本當の美を理解し得るような立場で通うと、画家の方でもこつそり他人の真似ごとをしてごまかすことが出来なくなる。私達が本當の美を見出すこと、立派な芸術家を

育てることは中味は同じである。

日本美術の部  
藤原時代の美術  
京大助教授 進実重康氏

日本民族が初めて独自の美術を持つようになったのは藤原時代(大体十世紀以降)になつてからのことであつた。それまでは奈良時代は元より、延暦十三年(七九四年)に都を平安に移してから九世紀の間は依然として中国の文化を崇拜する氣風がまだまだ強かつた。これは文化一般について言へることなのだが、美術にも異国的な、日本人には寧ろ奇異に感じられる要素が容易にはなくなつた。例えば西大寺十二天像、神護寺兩界曼荼羅等は甚だエキゾチックであるし、當時の佛像彫刻には必ずと言つてもよい程用いら

れた飄波式衣紋の起源を求めると中国を通つて更に印度にまで溯る。當時の佛像は大抵いかめしい容貌をもち、体は肥満して近寄り難い感じがする。

所がやがて唐が亡ぶと我國の中国熱も急に冷めて来る。中国行きを命ぜられた菅原道真は最早中国に学ぶことの無意味を理由に入唐を辞退する。公の中日関係はこゝに断たれ、これが自然、文化を日本独自で発達させることとなり、以後の美術はそれまでと比較すると遙かに日本人にとつて親しみ容いものになつて行く。日本人の淡白な趣味に合致するものになつて行く。日本人でしか見出せない美が作り出されたのが藤原時代であると考へてよい。

彫刻の方で言うと、弘仁貞観

のいかつい佛像は、室生寺の佛像のようにやわらかい感じのものに変つて来る。この変化は鳳凰堂の阿彌陀仏まで進んで所謂和様彫刻が出来上る。彫刻の作り方も、弘仁、貞観時代は所謂一本造りであつたのが、細かな部分を組合せた中空の寄木造りになる。外から見た感じは非常に

におだやかなものになる。容貌は誠に円満であるし、衣の襞の起伏も非常ににおだやかである。絵画の上では大和絵が成立した。大和絵とは唐絵(からえ)に対する言葉で、純粹に日本時な絵画を指すと考へてよい。奈良時代及び、弘仁、貞観時代は中国の作風をもつた絵画が流行してゐたが、延喜、天曆の頃から次第に日本の風俗を描くことがはやり出す。つまり画家が主

題を自分の身近な所に見出そう

とし始める。尤も唐絵と大和絵とをはつきりと區別するのは仲々難しいことであるが、唐絵の中から次第次第に形をつくつて行つて、鳳凰堂の壁面になると大和絵は唐絵とは別に純粋の様式を作り上げる。

又、今日我々が用いてゐる仮名の発明も美術の変遷と軌を一にしてゐる。思想、感情を表すには元々漢字に頼つてゐたのを、それを日本化して生活感情を一層自由にこまやかに表現出来るようにしたのが仮名である。今日知られる仮名も最も古いものは十世紀初めと考へられる清涼寺歌麴の胎内から出た紙切れにかゝれたものである。尙仮名の成立には女性が大いに寄与していることが注意を惹く。

所で藤原時代の美術を集大成して作られた日本的な美術の象

徴とも言はるべきものが、かの平等院鳳凰堂である。この堂は中央に丈六の阿彌陀仏を安置し、それも取巻く扉や壁には九品の来迎図を大和絵風の描き方で色鮮やかに描いてゐる。當時は浄土教の思想が広まつた時代であつて、人々は極楽浄土に往生する事を求めて止まなかつた。権力の座にあつた藤原頼通は極楽をこの世に実現せんものにとあらゆる手を尽して飾り立てたのであつた。鳳凰堂は藤原貴族にとつては極楽そのものに外ならなかつた。

京都は古文化の一つとして鳳凰堂を持つことを誇りとしてゐる。



# 京都市美術館 ニュース

No. 11  
昭和33年9月30日発行  
毎月一回発行

発行所 京都市美術館 京都市左京区岡崎公園 電吉田⑦4107・4108番

## 豊かな滋味と清らかさ 10月21日から 玉堂遺作展

日本画壇の最高の峰として、広く知られていました。亡くなられてからすでに一年余になります。今回の遺作展は川合玉堂遺作展委員会、国立近代美術館と当館の共同主催によるものです。東京展はさる九月十六日から開催され、深い感銘を与えています。当館における京都展も美術愛好家の年来の期待に応えることとしましょう。

故玉堂画伯の画業はご承知のように明治、大正、昭和の三代にわたっており、八十三歳という長い生涯を通じて遺された作品数もほう大なものですが、遺作展には明治二十

八年二月三歳のとき、すなわち画伯のご初期の作品から昭和三十三年の没年に至るまでの主要な作品が選抜、網羅され、その数は百四十余点に及んでいます。画伯の画業の全容はもちろん、近代日本画の一つの側面史をうかがうことが出来るでしょう。

明治二十八年の秋京都で開かれた内閣勲業博覧会に出品された橋本雅邦（天保六年し明治四十一年）の「龍虎図」をみて、心を揺り動かされ、翌二十九年雅邦をたよつて東京へ出ました。雅邦はこれまた長い伝統をもつ狩野派の流れ



小 春 (昭和28年)

### ◇参考書いろいろ

- 井島勉著 「芸術とは何か」 弘文堂アテネ文庫
- 植田寿蔵著 「傑作と凡作との論理」 弘文堂アテネ文庫
- 井島勉著 「ヨーロッパ美術」 同右
- 「美学」創文社
- グロウソグー 「抽象と感情移入」 (草薙正夫訳) 岩波文庫
- リード 「美術と社会」 (岡郷博訳) 牧書店
- 田中一松編 「日本の美術」 毎日新聞社
- 野間・谷編 「日本美術辞典」 東京堂
- 小林・藤田編 「日本美術史要」 創元社
- 谷信一著 「日本美術概説」 東京堂

### ：国際文化観光会館： ：建設工事始まる：

岡崎文化センターの一角に国際文化観光会館が造られることになった。色々な方面からその建物を要望されていた会館は、公会堂前の建設地で八月三日に地鎮祭を行い、十一日から感々タイ打ち工事に着手した。明後三十五年三月に完成する予定である。

押し進める上での重要な施設の一つとなる筈である。建物面積は一万五千三百平方メートル。構造は鉄筋コンクリート造りで、一部分鉄骨造りの中三階建。冷暖房、空気調整等完備。主な用途は  
大ホール 講演、音楽、映画等大規模集会用。坐席二千五百。音響効果を考へて平面は六角形である。  
小ホール 劇、映画場に使用。扇形で坐席は千二百。回り舞台セリ上げ装置も設備。  
国際会議場 会議席二百、傍聴席八十、平面は長方形。イヤホン設備、議長室、翻訳室、タイプ室あり。

### ◇友の会だより

○美術館夏期講座も無事幕を閉じました。

発行所 京都市左京区岡崎法勝寺町 京都市美術館

### ◇展覧会予告

- 参加者全員の熱心な御聴講に御礼申し上げます。
- 重館長からもお話をきき、たかつたとの御手紙を載せ、次の機会には是非一席プチたいと館長さん大はりきりです。
- 会員各位より美術についての御意見、所感等御投書をお願いいたします。宛先は美術館内友の会事務所。紙上掲載分には薄謝呈上。
- 10/1 御苑サマースクール児童画展
- 10/7 時代風俗人形展
- 10/21 京都市中学校鏡香展
- 10/28 私立総合展

力強い魅力」として強烈な衝撃を与えたのでしよう。いずれにしても四糸派をうけついで自然描写と狩野派の写意を重んずる理想主義的な画風は玉堂の画風の二つの極となり、しかもそれが溶け合いい、独自のスタイルをつくり上げていったことは否定できないようです。

院展に毎年すぐれた作品を送り、さらに明治四十年文展が開設されたときには審査員の地位にありました。同年発表された「二月月」は玉堂の地歩を固めた出世作として記憶されています。その後いよいよ滋味と清らかさによつて、現代日本画のために豊かな沃土を加えました。とくに昭和十五年の「彩雨」は典雅さにあふれた作品として名声を一段と高めるとともに、いままも画伯の最大傑作に擬せられていきます。

画業は最晩年までたゆみなく続きましたが、この間官展の重鎮として、また東京美術学校の教授や画塾の指導者として美術界に残した功績も大きいものがありました。

玉堂画伯の画風はさきに述べましたように二つの相異なる

る基盤のうえに醸成され、その技術面に幅と変化を与えることになりましたが、玉堂の作品を真に独自のものとしたものとして画伯が眼でいつくしみ、心に味わい続けて来た自然観を見出すことはできないでしょう。玉堂の描き出した自然には人を感服するけわしさも、人為に汚された卑俗さの一片だにありません。日本人がむかしから素朴で率直な眼で見つづけ、あるいはその中にわけ入つて来た山川草木が愛情をもつて、なつかしく描かれるのみです。自然と対決するのではなく、自然と融合し協和するところに日本人の伝統的な自然観があるとよくいわれますが、玉堂こそその心を画布に描きあげた比類のない画家であつたといえるでしょう。

この自然に寄せる玉堂の愛情は父ゆずりのものでした。お父さんは画家ではありませんが、心の美しい感受性豊かな人であつたらしく、少年の玉堂を連れてよく附近の山に登り、景色を楽しみました。おいしいお菓子があるとお父さんは「家でたべるのはおもしろい。裏の山へ行つてたべよ

う」と金華山のはずれの山に画伯をさそつたといわれるほどです。嬉々として山に登りながら、また美しい眺めを前にした少年の日の記憶が長い画業のどこかに生き続けていることでしょう。

### 川合玉堂略年譜

- 明治六年 愛知県葉栗郡外割田村に川合勤七の長男として生れる。本名芳三郎。
- 明治二〇年(一四才) 京都の望月玉泉に師事、画号玉舟。
- 明治二三年(一七才) 幸野操の門に入る。
- 明治二六年(二〇才) 大洞銅を出品、三等銅牌。
- 明治二九年(二三才) 上京、橋本雅邦に師事。
- 明治三一年(二五才) 第一回院展に「冬嶺遊鹿」を出品、三等銅牌。
- 明治四〇年(三四才) 文展審査員となる。東京府勲業
- 博に「二月月」を出品、一等賞。
- 明治四一年(三五才) 玉堂を中心とした山水会結成される。
- 明治四三年(三七才) イタリア万国博覧会審査員となる。
- 大正六年(四四才) 帝室技芸員になる。
- 大正七年(四五才) 東京美術学校日本画家主任教授となる。
- 大正八年(四六才) 帝國美術院会員となる。
- 昭和三年(五五才) 門下生による成辰会発足、顧問となる。
- 昭和六年(五八才) 仏レジオン・ド・ヌール勲章を受ける。
- 昭和九年(六一才) 大札記念京都市美術館展に「新月古城」を出品。
- 昭和一一年(六三才) 東京美術学校教授を辞任。
- 昭和一四年(六六才) 戊辰会解散。
- 昭和一五年(六七才) 文化勲章を受ける。紀元二六〇

〇年奉祝展「彩雨」を出品。

昭和一八年(七〇才) 俳句集「山笑集」を出す。

昭和一九年(七一才) 東京都西多摩郡三田村町御岳に疎開。

昭和二六年(七八才) 文化功勞者として表彰される。

昭和二七年(七九才) 「大観・玉堂双展」開かれる。

昭和二八年(八〇才) 大患、ほどなく全快。

昭和三二年 六月三〇日心臓喘息のため死去、八三才。

## 美術館夏期講座

講演要旨 (つづき)

### 印象派まで

洋画家・大教授 黒田重太郎

数千年に亘る西洋美術史の中から特に印象派をとりあげてお話ししようとするのは、

第一に、印象派が日本にどうして来たのか、近代の感じが確立されたこと。アカデミー派の勢力に反抗して型にはまらない新しいものを作ろうとする気持は、印象派から始まつて立体派、シュールレアリスム等何であれその気持が今に続いている。

第三に、西洋画の歴史は印象派の出現で初めて近代の感じが確立されたこと。アカデミー派の勢力に反抗して型にはまらない新しいものを作ろうとする気持は、印象派から始まつて立体派、シュールレアリスム等何であれその気持が今に続いている。

二、題材の制限を取除いたこと。

それまでは絵の価値は題材によつて左右されていたのだ

が、印象派の画家達はこの考えに逆つて、卑近な題材であっても、それをどのように描くかということの方に画家の考え方を切替えてしまった。

三、絵が明るくなつたこと。

十九世紀に色彩科学が進歩したことなども助けとなつて、それまでの茶色っぽい絵が急に明るいものになつて行った。

じを抱かせることになる。

しかし、何か具体的な対象でもつて我々に語りかけてこないものは美術と言えないものなのだろうか。絵の中の色や形が文字的、言葉的な役割をして、これは何々である、と我々にわからせることがなければ、美術として価値あるものと言えないのだろうか。

若しもそうなら、モダンアートは美術として誤りをおかしていることになる。又反対に文学的役割が必要でないのなら、文学的条件は美術を寧ろ不純にするものであつて、モダンアートこそ純粹の美術だと言ふことになる。

この点を十九世紀末から今世紀にかけての作家達がどう考へて来たのか調べて見ると、モダンアートの作家達にあつては文学的なものは夾雑物であるとする意見が強いのである。

### モダンアート

京都工織大教授 河本敦夫

モダンアートが意外な感じを抱かせ、不可解なものに思われるのは、それが具体的な形を描くことから離れようとして居る所にある。十九世紀までは大体的な形を描いて来たのだが、モダンアートはそうではない。そこで一般人には身にしみてわかることが少なくなつて不満な感

ラスでかいてある絵は何の絵なのかよくわからない。しかし、わかないままに、その色、光、かげに心を捉えられ感動をうけることがある。絵画が他の芸術に対して持つて居る特色はこういうところにあるのだ。絵は光や影や形だけで本質的になり立つと言ふ意見である。ドモ絵の美しさとは、何かの秩序で整理された形をもつた平面の美しさのことだと考へている。マチスも自分には自然をそのまま写すことは不可能で、自然を絵画の形に変えて表現したいという。この傾向は段々強くなり、抽象主義となるのが、モンドリアンに極的に主題を排除するところまで進み、21日

が成立して、ラング国立クロモダン・ミューラー美術館によつて、新新聞社を求め、京都市家は美点、素描七〇点、確信を二三〇点

本の洋画界に鑑賞者も含めて一いつて身近であるからだ。つまり時代的に初期の日本洋画界は印象派に接近して

第二に、日本は印象派の成立に大きく寄与していること。つまり浮世絵は印象派の発生を促した全部の原因ではないけれど、印象派の画家達はその運動を起すに当つて浮世絵から多大の影響を受けた。ブルターニュのゴッガン

の家には歌麿の版画が掛けてあつたと云うし、ゴッガンが南仏アルルへ行つたのも浮世絵のような鮮やかな色彩を求めてのことだつた。従つて逆に、日本人の方でも浮世絵によつ

て、あとは見る人の想像にまかせるようになった。

一、描写を単純化したこと。

昔の絵は記録性つまり宗教上の物語とか、肖像だとか一を要求されていたので、精密に描く必要があつた。所が、新発明の写真術が記録に使われるようになったり、又産業革命に伴う思想の変革などによつて、描写を簡単にし



# 美術館11月の催し

## 展覧会

パンリアル美術協会は、東京都在住の若い日本画家を中心としたグループで、美大の前身である京都美術専門学校を出た三十代の画家たちが集っています。

この間まで花鳥画とか美人画とか狭いワグをはめて考えられてきた日本画の視野をひろげて、日本画を自由な芸術としての軌道に乗せることを眼目として出発したので

す。抽象主義やシュール・レアリスムなどいまままで日本画になかった表現の方法をもとり入れました。若い人達だけでなくにその実践も勇敢なものでした。しかし昭和二十三年に結成されて以来すでに京都、東京、大阪で十数回の展覧会をもち、地ならしの時期を終つて新しい段階に入つたようです。会員のうち下村良之介、大野秀隆両氏は明年ア

## 新制作展

昭和十一年、当時の官展を支配していた派閥的な空気が逃れ制作活動を純化しようとして旗上げされました。洋画家の猪熊弦一郎、佐藤敬、脇田和、小磯良平氏らが創立のメンバーでしたが、第一回展の入場料総額が五十円（一人五十銭）だったことも語草となつていきます。昭和十四年には本郷新、佐藤忠良氏らが加わつて彫刻部ができ、さらに昭和二十四年には建築部ができ、ある年の会場には実物

の建築が持込まれたりして話題を呼びました。建築家のグループが美術団体に加わつたのはめずらしいことで他に例をみません。さらに昭和二十六年には創造美術協会と合併し、創美は日本画部となつて総合美術団体としての体制が整いました。今回は三〇〇点の出品です。

## 自由美術展

自由美術協会は日本の前衛美術のシニセのついでに数えられる団体です。長谷川三郎、山口薫、村井正誠氏らによつて昭和十二年に結成されました。保守主義や専横を抵抗しようとする意欲をもつた画家の集りとして出発したわけですが、オブジェやコラージュなど実験的な手法を盛んに試み、国策の線に沿つて権力追従に流れがちな美術界にあつて絵画の純粋性を守ろうとしました。このような傾向のため圧迫を受け「自由」という会名まで変更させられたこともありましたが、現在もヒューマンイズムのうねに立つた前衛美術の展開

## 二紀展

昭和二十二年で比較的新しい団体です。しかし創立の中心になつたのは黒田重太郎、田村孝之助、宮本三郎、鍋井克之氏らのベテラン洋画家でした。これらの作家は戦争中いずれも二科会に属していましたが、戦後二科会が再建されるとき同会には参加せず、一派を開いたわけですが、戦後の新しい紀元を画するという意味で会名も「第二紀会」となりました。創立会員の顔ぶれからもわかるように円熟した

## 墨人展

書の墨人会は日本画のパンリアルとともにも極めて異色ある研究団体です。昭和二十七年に既成書団体のもつていろいろの制約から自由になるために結成されましたが、作品のうえでも「形式主義を破り、書の根元に立ち返る」ことを主張しています。いままでの書道という概念から全くかけ離れた自由さが特色となつていきます。京都の森田子龍氏を中心に全国に会員があり、その活動も展覧会や雑誌「墨人」などを通じて活発です。アメリカやヨーロッパでも展覧会を催し、西洋諸国に「墨の芸術」の一端を示す役割を果しています。今回の公衆展では一〇〇点が出品されます。

現代画家の描く自然を念頭において考えた場合、玉堂の描いた自然はいかにも時代がすすんだものであるという感じを抱くかも知れない。無理もないことで、画家が眺める自然そのものはいまも昔もさほど変つていないが、現代絵画はその自然を、なにかしらいらしたものと描く。また威圧的であつたり、錯乱し

画家の描く風景画によつて養われた先入観を捨てて玉堂に接すれば、新たな味わいを感じる事ができると思う。玉堂の描いた自然は善意に満ちたものである。人間の温味がにじみでて、あたかも陽だまりに居るような、和やかな気分にならざるを得ない。そこにある自然はシンラツでもなければ、はげしくもない。むしろ

# 川合玉堂について

源 豊 宗

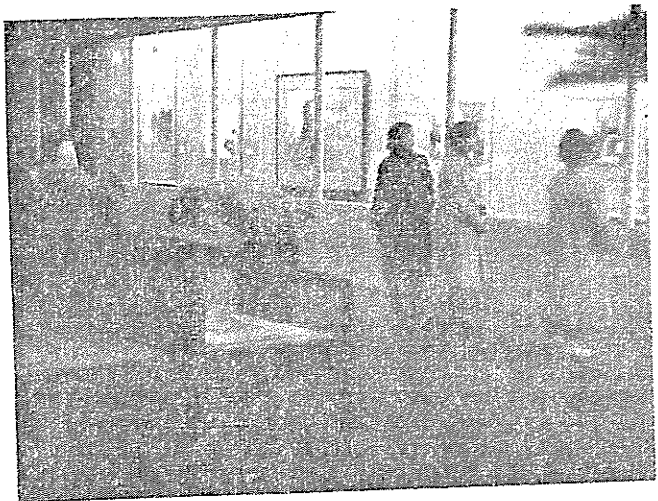
た自然であつたりする。現代作家の描く自然はこのように非情な場合が多い。そしてそのような作品が芸術として一段ときびしく、深いものであるかのようには思ひ込まれていない。

しかしこの種の作品は感覚的には衝撃を与えても、芸術としてすぐれているとはいえないことが多い。だから現代

る希望に満ちた自然があるの

である。山が描かれても、その山は壁の如くつつ立つたものではなく、その向うに希望や幸いがあるかのようを感じさせる。玉堂はよく雪景色を描いたが、その雪は暗くも冷たくもなく、やわらかさと明るさをもつていた。

そして玉堂の画風についていうならば、あの柔らかな温



自然とをさらにしつくりと結びつける力であつたのではなからうか。

明治四十年に発表された「二月」はかなりの程度で玉堂の様式、いいかえれば玉堂の自

然観が表明された作品といふことができる。

さらに大正年代の「細雨」になるとこれは一段とはつきりしてくる。山深い多摩川の上流を描きながら、絵が感じ

させるものは非常に明るくて広い空間であり、玉堂特有の自然のとらえかたが物語られている。この空間のひろがりには玉堂その人の性格から発したものであるが、この空間のひろがりや表現するために、怪物が少く、横物が多いことも注意されてよいだろう。そして山里の風景にちりばめられる農夫も苦悩にあえぐ人々ではなく、おのが分に応じて人生を生きる幸福な人々としてとらえられるのである。

このような自然観、人生観は現代そのものではないかも知れない。しかしその一面われわれが遠い過去にもついていた自然と人生とをなつかしくよみがえらせる力をそなえている。

玉堂を大観、樞鳳と並べた場合、これまではやや低く評価されるのが普通であつた。しかし、大観の思想性や樞鳳の秀抜な筆技はないにしても、日本人の本質にねざし大作品を遺したという点において、二者におとるものではないのである。（関西学院大教授・講演要旨） 写真は玉堂展会場

# 展覧会案内

34年1月

展 27日—2月15日

## 京都府ギャラリー

(四条御旅町)

- 小樽一夫個展 11日—14日
- 大和マネキン・デザイナークラブ展 15日—17日
- 林俊治個展 18日—20日
- 染色グループ展 21日—24日
- 大垣製造油絵個展 26日—30日

## 京都国立博物館

インド・東南アジアの染織

11月9日まで

## 滋賀県立産業文化会館

(大津市)

◇洋画家小牧源太郎氏は南米、ヨーロッパ遊学を終つて去る十月十日京都に帰つた。同氏は昨年七月に出版、ブラジル、サンパウロ美術館で個展を開いた。

◇独立美術会友芝田米三氏は今年の独立美術展に「山羊」など三点を出品、会員に推挙された。

◇院展同人真道黎明氏は京都市左京区浄土寺石橋町四五へ転居

◇日本画家依岡慶樹氏は京都から東京都杉並区久我山一ノ一八、北村方へ転居。

◇日本画家浜田観氏宅電話開通 京都(四五)一三三三

## 美術館

11月

- 征瀬悦子アトリエ展 1日—3日
- 新制作展 1日—14日
- 立命館大学美術展 9日—13日
- 京都学生美術連盟展 15日—19日
- 自由美術展 16日—27日
- 二紀会展 17日—25日
- 墨人展 21日—23日
- パンリアル展 17日—25日

京陶青年部展 4日—9日

彫塑家クラブ関西支部展 8日—12日

- 金島桂華スケッチ展 14日—18日
- 京都二紀クラブ展 21日—25日
- 伊谷賢蔵個展 27日—12月1日

## 京都書院画廊

11月

- 日本刺繍院展 1日—3日
- 洛北高校美術展 4日—5日
- 杉グループ展 6日—10日

## 大丸美術部画廊

11月

- 竹内栖鳳素描展 4日—9日
- 名作茶道具展 11日—16日
- 色紙展 18日—23日
- 錦虹会日本画展 25日—30日

## 大阪市立美術館

縄文・弥生の時代 12月14日まで

## 藤田美術館

(大阪都島区網島町)

古美術と茶器名品展 11月26日まで

## 逸翁美術館

(池田市)

秋季特別展 11月30日まで

## 倉敷考古館

(倉敷市)

古代ニジプト芸術展 11月23日まで

## 白鶴美術館

(神戸市東灘区住吉町)

古代中国青銅器、11月16日まで

## 編集後記

11月3日まで当館で開催の川合玉堂遺作展は大観、栖鳳とならぶ巨匠だけに多数の観覧者を数えています。会期中の10月26日と11月1日には会場で、源豊宗氏、川合真一氏による講演会があり、来館者が熱心に耳をかたむけ盛況でした。いよいよゴッホ展が近づきました。来号では同展についてくわしく紹介する予定です。

## 友の会だより

◇総会は10月21日午後二時から館内で開かれ、本年度上半期の事業報告と美術館での催し物の紹介を重美術館長から詳細に承りました。

◇11月1日からの新制作展 11月16日からの自由美術展 11月17日からの第二紀洋画展

- 京陶人形即売展 1日—6日
- 水月会小品展 8日—10日
- 蒼文会展 15日—20日
- 在洛作家日本画展 22日—27日

No. 13

昭和33年11月25日発行  
毎月一回発行

# 京都市美術館ニュース

発行所 京都市美術館 京都市左京区岡崎公園 電吉田④4107・4108番

## ゴッホ展開く

12月3日—27日

フアン・ゴッホ展がいよいよ当館で開かれます。ゴッホはヤン・ヴェルメールらとともにオランダの生んだ偉大な画家としてあまりにも有名です。日本でもゴッホほど広く知られ、親しまれている画家はないでしょう。

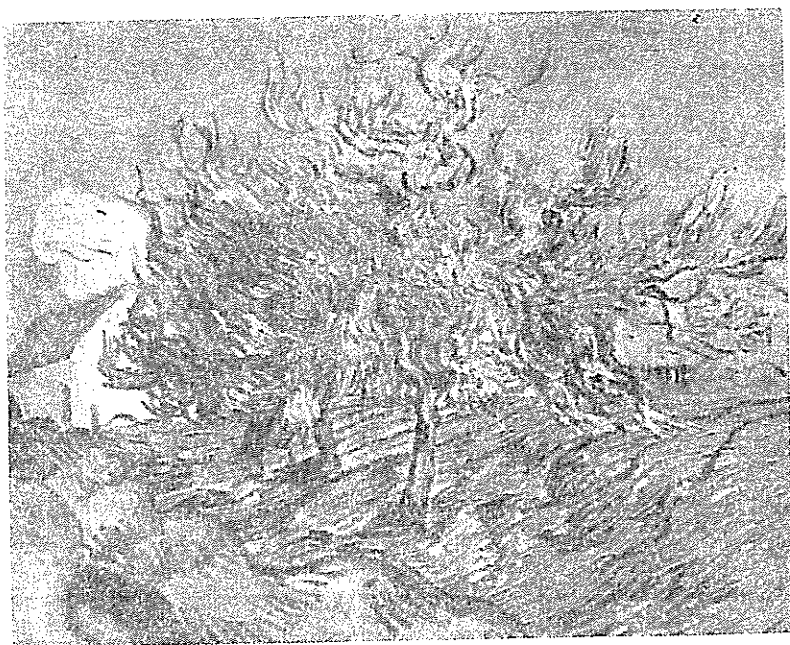
ゴッホ展の作品はその大部分がオランダ国立クロラ・ミユラー美術館からもたらされ、ほかにオランダのハーグ市立美術館、アムステルダム国立博物館からの数点が加わり、合計一三〇点です。

今回ゴッホ展が開かれるに当つてはあらゆる美術雑誌がゴッホ号を特集して、いやがうえにもゴッホ・ブームの感を深めています。ゴッホに寄せられる人気はこの画家をい

ろどる数々の逸話、貧困と病気を闘い続けた悲劇的な人生、そして特徴あるスタイルの中に秘められ、あるいはあふれ出る素朴な真実によるものでしょうが、この機会にだれもがオランダから直接送られて来たゴッホを自からの眼で確かめ得ることは何んといつてもよろこばしいことです。

ミユラー美術館の所蔵品はデン

は油絵、水彩、素描、水彩、石版画、ニッティングなど九〇〇点といわれていますが、そのうちオランダに一一四五点が遺され、次いでドイツ一五七点、フランス一四〇点、スイス六三三点とあります。日本には四点が来ています。



# 美しい非俗

— 白隠とゴッホ —

加藤 一 雄

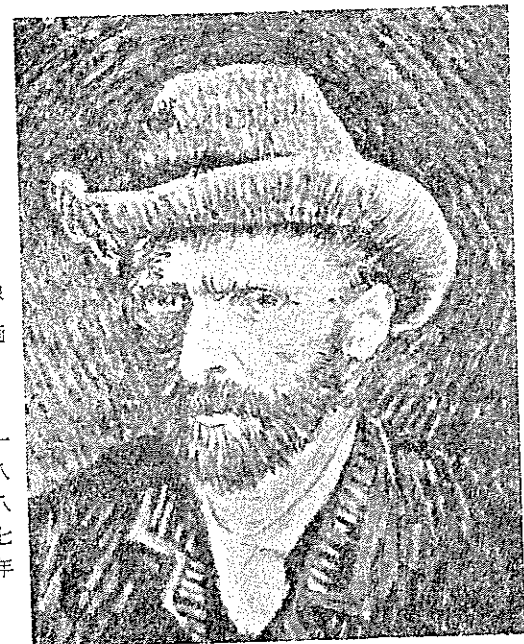
展覧會鑑賞は私の趣味のレ  
ベルトアルには入つていませ  
んが、この秋は珍しく好い展  
覧會を見ました——それも全  
く偶然です。私は秋雨の降る  
ある日所用あつて東京に行き、  
近代美術館に寄りましてここ  
ろ、たまたま其処で「白隠の  
芸術展」をやつていました。  
私がこの臨濟僧の水墨に接し  
たことは、だから、全くゴッ

ハサド なんです。然し、大  
変感心しました。この調子な  
ら時々展覧會は眺かなきや不  
可んと思ひ直した位です。  
白隠和尚の遺墨は確か昭和  
の初頃京都の博物館で展覧が  
あつたように憶えています。  
然し、その頃の私は若く、色  
々の思いに忙殺され——つま  
り此の世を生き感じることに  
忙しく、徳川中期の禅僧なん  
か殆んど眼中にありませんで  
した。それが今日、銀座の雨  
に濡れ、合オーバの襟を立て  
て、白隠の芸術なんか感心  
して見る所を見ると、私も老い  
たのです。「軽やかなりし昔  
春」は遠く去りました。展覧  
會を見て感心している園なん  
か、六抵の場合、再び返らざ  
る後悔以外の何んでもありま  
せん。然し、感心は依然とし  
て矢張り感心です。私が近代  
美術館で肅然として而も気持  
ちの好い半時間を過したこと  
も亦否定できません。この気  
持ち好きの由つて来る所は、  
私は思つたのですが、白隠の  
見事な退却振りです——この  
騒しい現実の俗世から弱々と  
して退却して行くその武威と  
歩度です。現代美術デブナリ  
スムは旺んに俗世に対して呼

びかけています——丁度宿引  
きのように。私は別にデブナ  
リズムを求めようと思わず、  
享保時代と比較しようとも思  
いません。これも致し方がな  
い現象でしょう。現代社会に  
於て美術は経済的証を得て  
いないのですから、此方が無  
効の媚態を呈することも真に  
己むを得ないことです。  
私が白隠の退却振りに感心  
するのは、彼と同じように退  
却して行く連中の中に置い  
て、殊にその見事な退却振り  
なのです。現代に於ては退却  
する者は矢張り依然として非  
国民・敗戦主義者と罵られて  
います——そして結局敗戦者  
自身が無条件降服するのが落  
ちちやありませんか。私は毎  
日街頭で見かける中年初老の  
男共の顔——退却榮譽によく  
よくし、全力と権力に渴き、  
而も何の幸福もないあの凄ま  
しい顔を見る毎に無条件降服  
者の悲惨を痛切に感じます。  
眞の男性の事業は退却にあり  
ます。私はこの事を一言出紀  
「談」やナポレオンの仏蘭西戰  
役を読んで知りました。武人  
の眞骨頂は見事な退却にあり  
ます。問題は「見事さ」  
にあるので、これには一刀両

断の決意が肝要でしょう。私  
だつて時折退却は企てるので  
すが、彼が俗物で世間に未練  
が残るものだから、いつも醜  
態を曝け出す結果になりま  
す。白隠は十歳の折り地獄の  
説法を聴いて奮起し、俗世を  
捨てる覚悟を決めたと聞いて  
います。私は眼底の熱するの  
を覚えます——こう云う男性  
的な明晰な決意に私は非常に

落るようです。然し、問題  
は白隠です——白隠の場合  
私は常山紀談に云う天晴れの  
退き口なる感が致します。退  
却軍の駁りを承り、跡を慕う  
敵と時々返し合せ乍ら退いて  
行くのです。天晴れ大勇の士  
ならでは動るところでありま  
せん。私は白隠にこの大勇が  
あると思ふのです。彼の背後



ゴッホ 自画像

一八八七年

いす。彼の遺墨に見られる  
あの強さとあの寛濶とはどう  
もこの武威と歩度とに在る気  
がして仕方ありません。  
私は凡そ五〇点程の遺墨を  
見たのですが、流石の彼も中  
年の頃までは戦闘の鋭氣が少  
し強すぎるようです。俗世の  
返り血は彼の四肢に斑々とし  
ています。真に白隠の芸術が  
美しく成るのは矢張り老年に  
は入つてからです。私はこの  
意味で最晩年の遺墨——布袋  
や寒山詩・坐禪銘に感慨を久  
しうしました。既に敵からは  
遠く離脱し、刃のこぼれた劍  
を捨て、ぼろぼろの差物も投  
捨てて、暫し路上の石に憩う  
老武者の感があります——そ  
して、その時には早くも最後  
の退却——死——が白隠の目  
前に来ているのです。

いでしようか。「古き世多く  
はこれ少年の人なり」これは  
徒然草の中の一フレーズなの  
ですが、私は偶然思ひ浮べた  
この一句によつて兼好法師が  
夙にこのことに氣付いていた  
ことを感じ取りました。彼は  
「少年の人」を哀れみ乍ら半  
ばは羨望しているのです。羨  
望し乍らも、然し、彼は殊々  
と意地悪げに六十八歳までを  
生き続けて行きました。  
私はその日の午後美術館の  
友人と築地で天ぷらを食いま  
した。相手の奢りですから腹  
一杯に食いました。彼は上野  
でやつているゴッホ展を是非

見よと奨め、別れ際にわざわ  
ざ神風タクシを呼んでドブま  
で開けてくれました。斯うま  
でしないと、否な性分の私は  
あのヤヤコシイ都電に乗り結  
局迷子に成る恐れがあるので  
す。お蔭で私は閉館直前のゴ  
ッホ展に間に合い、匆惶とし  
て一見することが出来ました  
——そして大変感心したので  
す。平素私は絵を見てても、屋  
間の木尻みたいなものが、  
御馳走を食つた後では俄然鑑  
賞力が旺盛になる癖がありま  
すから、この日の感心に嘘い  
つわりはありません。ゴッホ  
と云う人を私は激しく燃え上

る炎の人ときどき思っていました。  
そしてそう思ひ込んでいた  
のですが、今眼の前に真物を  
見るとどうも違います。私に  
はゴッホも亦退却の人だと見  
えました。彼の絵は静かで寂  
しいのです。世の俗物共に一  
隅へ追やられ、そこで孤独の  
中で発見したのが彼一流の美  
しい色彩だと思ひます。けれ  
ども、彼は決して怒りもせず  
亢奮もしていません、おとな  
しい人です。俗物の吐かける  
唾と尿に濡れそぼり乍ら、外  
套——擦切れた外套の襟を立て  
てて自分の純粋を守つてい  
るような感じがします。ゴッホ

は精神分裂  
症だつたと  
聞いていま  
す。實際そ  
うなのでし  
よう、彼の  
自画像を見  
て私も又確  
信しまし  
た。然し、  
名譽の分裂  
症です。乞  
食のような  
聖者のよう  
な画中のゴ  
ッホは一種  
悲しげな眼で失つた自己を  
遠く追つています。分裂し通  
走した自己は俗物獣としての  
ゴッホです、画中に残つたの  
は心の貧しい純粋のゴッホで  
した。然し、彼とても哀れ矢  
張り、遁走した自己が幾分懐  
しく羨しかつたことでしょう  
——そんな眼をしています。  
此処まで見て来た時愈々会場  
に夕闇は迫り、私は係員によ  
つて外へ追出されました。  
(本館学芸主幹)

## ゴッホの文献

- 小林秀雄「フアン・ゴッホ」  
人文書院・一八〇〇円
- 植田寿敏「フアン・ゴッホ」  
弘文堂・三〇〇円
- 式場隆三郎「ゴッホの百  
年」美術出版社・四二〇円
- アンリ・ペリヤシヨ「ゴッ  
ホの生涯」紀伊國屋書店・四  
九〇円

私は喫茶室に入つて紅茶  
を注文し、此処のところをも  
一度泌々と考えました。雨滴  
は美術館の中庭の樋に愛憎な  
音を立てています。白隠程の  
資質を以てしても、退却の功  
を先うするためには八十歳を  
待たねばなりません。退却  
の真の奥所——死——に速に  
は入る方が氣が利いてはいな



白隠 遺墨画 (部分)



ない原色の、粘着力のある線である。「ゴッホ展」最後の部屋に、かれの絵のディテールを拡大鏡で大きくした写真が陳列されていたが、それは一種異様な迫力を伴う、ゴッホの生理そのものといった感じのものであつた。かのアンフォルメル画家の中には、このようなゴッホの絵の細部にヒントをえて、抽象的な絵画を形成する作家がいる。画面に無形状のかたまりを吐き出すことによつて、自我の混沌をそのままあらわそうとするかれらであるだけに、ゴッホの情熱の塊ともいべき筆触に打たれるのも当然かもしれない。

このようなゴッホの芸術の理解のために逸することのできない一つの事実がある。それはかれの出生の秘密である。ゴッホは1853年3月30日に生まれたが、かれのうまれる丁度1年前の同月同日に、やはりフィンセントと名づけられた兄がうまれていて、この子は6週間世を去つた。名前が同じで、生まれ月日が奇妙に一致している亡兄の思い出は、後になつてゴッホの罪悪感を強めた。「一体私は誰のためになることができるろう？ 何の役に立つことができるだろう？ 私の上に何かがある。それは一体何だろう？」これがマロワのいわゆる「失われた同一性」の探索と、自らの全面的犠牲の要求に悩まなければならなかつたゴッホの生涯の悲劇の源流だつたのである。

(京都市立美大助教授)



## ゴッホ断想

木村重信

景も近景も、同じ濃度の、同じ強さと同じ大きさの筆触でえがいている。ヒルデブラント流に言えば、かれの絵はまさしく「近像」である。対象を遠くから眺めて、それをルネサンス的遠近法にもとづいて統一するという「遠像」ではなく、対象に近づき、対象との距離をすてて対象と一つになろうとするのである。ゴッホの性格は自然にたいする傍観的な態度をゆるさず、かれは自己と対象との区別を超えようとしたのである。ゴッホの絵が圧倒的な強さとヴェリュームとを宿しえたのも、まさにこの「近像」という近視眼的な視覚によつてである。(かかる「近像的」表現は、多少形をかえてではあるが、棟方志功や山下清においてもみられるところである。)

しかもかかる「近像」を成立せしめるゴッホの筆触は、はじめから終わりまで同じ容積の、同じ力と速さをもつ、新鮮この上

「絵画における色彩とは人生における熱狂のようなものである」とゴッホは手紙の中でかいている。「人は同時に極と赤道に立つことはできない」としてはつきり意識して色彩の道を取り、明暗の方法をすてたゴッホであるだけに、絵画の色彩を人生における熱狂に比したこの言葉は重要である。ゴッホによつて絵をえがくということは、そこにおいて自己の情熱や憂愁をきくことであり、自己を形作ることであつた。したがつてかれの絵は、もはやその背後に超越的な実在というものを予想しない。また感情が移入される前からあつて、感情の流れ込むための型となるようなものでもない。ゴッホによつて絵画とは、渴望そのもの、情熱そのものである。その意味で対象はもはや見られるべきものではなくて、かいて「糸杉」も「向日葵」も「自画像」も、ふかく人生のバトスを秘めることができたのである。ゴッホ独自の特殊な遠近法が、ここから生まれる。

ゴッホは日本の浮世絵版画に共感した。ことにこの芸術の特殊な遠近法にうたれた。たとえば大きな波の間にみえかくれする小さな富士山の絵のように、浮世絵には中景がない。近景と遠景との対比によつて画面が構成されているが、それはルネサンス的な視覚的遠近法とはまるでちがつたものであつた。ところがゴッホはこの浮世絵の遠近法をさらに徹底して近景のみでえがいたのである。バリ時代後半以後の、かれのどの絵をとりあげてもよい。かれは遠景も中

## 雪の絵のことなど

洋画家 黒田重太郎氏

「新春を迎えましたが、なにかことしの抱負といったものを――雪の絵をかきたいと思つてい

る。年がいつて風邪を引きやすいのでいまから冷水擦れをして準備しとる。これまでのスタイルとは変つた境地を出そうと思つている。ええ歸してと笑いやるかも知れんが……。

「昨秋は二紀展が久しぶりで京都へ来ましたが、成果はいかか

つたか。二科や行動へ行つてしまつた。しかし会を進展させ、新しい作家をひきよせるにはその地方地方で本展を開くより手がない。経済的意味もあつて踏切れなかつたのをあえて京都へもつて来たのは実のところそういう目的からだ。まあこれでい

ままで出品してき

た作家を確保し、それに刺戟されて新しい人が出てくると思う。いま京都の出品者は三十人くらいでしよう。本展でよい仕事をした地元の新入人は――

若い人をおだてるのはあまりよくないが、ルオー風の絵をかいていた水野一あたりなかなかよかつた。すいぶん犠牲を払つ

に箱根まで行つたが、暖かくて全然雪が降らん。あきらめて帰りの車に乗つたらテラテラ降り出した。皮肉なことだつたが、それですつかりあてがはずれよつた。しようがないので夏まで待つて苦寺をかいた。苦寺はすつと前からかいてい

る。坊さんが



て出てきた人で勉強家ですわ。それから大塚君。抽象風のものですが新しい人としてはしつかりしてました。

「先生の作品は西芳寺の庭でしたね――

「昨年が一番出来の悪い年やつた。手回しよく三月に雪をかき

ら表彰されてもよくないだ。――先生の絵は日本の風土に実に忠実な色彩がされていると思

いますか――

油絵をかくのには西洋の風景ではないと絵にならん、などというのはきらいだね。色でも題材でも実際住んでいるところに従つて正面から取組むのが本当ですわ。

ただし日本の緑はたしかに重苦しい。フランスなんかの野山は日本というところよりと信州の山中の緑のように淡い色をしている。イタリアの緑もくどくどしい。

――静物画も多いですね――

夏戸外で写生しているら日射病でたおれたことがあるので夏はかなわん。その点静物画は結構。人物もよくかいたがモデルを呼んでくるとモデルがすぐ退屈するので、どうしても話をして機嫌をとる必要がある。ところが私なんか女の子をよろこばせるような頓智が

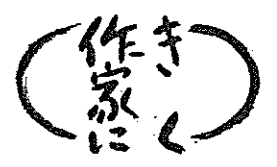
なないのでこつちが往生してしま

う。

――ゴッホ展は大変な人気でしたか――

ゴッホの講演をしてくれとなんべんも頼まれたので結局五回みた。年の加減かその度にみないと絵を忘れてしまうのでね。三度目あたりからもう思わなかつたオランダ時代の暗い絵、よいのではないかと思えてきた。まあ全体としてゴッホは表現主義と非常に誠実なところでもつていよる。小回りは利かないが、うそのない絵だ。「耕桃」の絵をみてあの枝が本當にあつてかいたのか、なくてかいたのかわかる。あの枝は実際あつた枝ばかりだ。正直なものだ。――最近印象に残つたことがありましたか――

佐伯祐三の遺作展なんかよかつた。あまり買つていなかったが、よいところもあるなと見直した。しかし天才というほどではありませんよ。須田はん(須田國太郎氏)の話だが西洋では「天才」とはなかなか呼ばない。レオナルドは天才だが、ゴヤになるとはたして天才かどうか正面切つた論議がくり返されているという。日本ではちよつと器用に絵をかいて若死にしたらみんな「天才」だからばかばかしい。



「作家にきく」

「作家にきく」

――

――

――

# 展覧会案内

## ▽京都書院画廊

1月  
堀川高校美術クラブ展  
12日-16日  
こぶし画会卒業展  
16日-20日  
チャータール会かきぞめ展  
20日-26日  
京都学芸大書道小品展  
26日-30日

## ▽美術館

1月  
独立美術展 8日-22日  
日吉ヶ丘高校美術ニス展 15日-19日  
展 27日-2月15日

## ▽土橋画廊

1月  
安藤平庵陶画と日本画展  
27日-2月1日

## ▽大丸美術部画廊

1月  
全国郷土玩具展 5日-11日  
新春短冊展 13日-18日  
刀剣展 20日-25日  
桜彩会洋画展 27日-2月1日

## ▽丸物美術部画廊

1月  
初春掛軸展 2日-8日

## ▽大阪市立美術館

1月  
独立美術京都作家展 17日-21日  
七科創作展 23日-27日  
日本書芸院展 30日-2月5日

## メモ

和田英作氏(洋画家・芸術院会員)三日清水市三保宮方の自宅で死去。八十四歳。東京美術卒。黒田清輝に師事し、独仏留学を経て美術教授、校長となり、昭和十二年芸術院会員、二十六年文化勲章を受けた。主要作に「渡頭夕暮」「思郷」などがある。

石井柏亭氏(洋画家・芸術院会員)旧臘二十九日東京女子医大病院で死去。七十六歳。浅井忠、藤島武二らに師事、文展を経て大正三年故安井曾太郎らと二科会を創設。昭和十年芸術院会員となつて官展に復帰した。その後一水会を創立、帝、日展のリーダーであつた。

洋画家小橋康秀氏(左京区岡崎江町)はニエーモークンテイパル

1 団頭長カーティン氏の招きで渡米。約一年間同市に滞在、個展を開く。

パンリアル美術協会会員大野秀隆氏はこのほど同会を退会、無所属となつた。パンリアルは下村良之介氏ら従来のメンバーによつて創作活動を続ける。

故安井曾太郎氏の画業を顕彰するため一昨年設定された安井賞展の第二回展は旧臘国立近代美術館で開かれ、全国から推選された三十五才以下の新人が出品した。安井賞受賞者は渡仏中の自由美術協会会員野見山映治氏であつた。なお京都からは独立美術の芝田米三、行動美術の矢野喜久男両氏が出品した。

◇ファン・ゴッホ展は会期が一月五日まで延長され、フランス展以来の盛況のうちに閉幕した。同展のため全館員は全力を傾注したが、館員以外のアルバイトも八十数人を数えた。

## 日展の観覧料

前売割引券	八〇円
大人券	一〇〇円
学生(大学高校)	七〇円
小人(小学中学)	五〇円
大人団体	八〇円
学生	五〇円
小人	三〇円

(団体扱いは二十五人以上。二十五人に一人の割合で引率者は無料。貧困家庭児童、生徒の場合もその団体入場者の一割までは無料の扱いをする。)

## 美術館の新評議員決る

当館には運営上の重要な事項について、市長の諮問に応じ、意見を開陳して頂くため美術界、学界人からなる評議員会が置れているが、さきに西山翠峰氏が亡くなり、また館の美術活動の活発化にともしない評議員会の活動分野も広くなつたので、今回八人の新評議員が委嘱された。これで評議員は二十氏となつた。評議員は次の通りです。

新評議員	榊原 紫峰	徳岡 神泉
	金島 桂華	山口 華揚
	池田 遙郎	伊谷 賢蔵
	川端弥之助	辻 晋堂
従来からの評議員	福田平八郎	宇田 荻郎
	小野 竹喬	堂本 印象
	須田国太郎	黒田重太郎
	松田 尚之	菊池 一雄
	山鹿 清彦	清水六兵衛
	楠部 弥次	井島 勉

# 京都市美術館

発行所 京都市美術館  
京都市左京区岡崎公園 電話4107

昭和34年1月25日発行 15号

## 日展の今昔

金島桂華

日展という名になつたのは戦後のことですが、その前身の帝展、文展から数えると随分長いことです。私がかつて出品したのはたしか大正七年、初期文展の最後の年でした。その当時われわれ若輩の頭上におられたたかさんの先輩もいまほとんど全部なくなつた。私が初めて入選したころ、老成されて恐ろしいばかりに仰ぎ見た極風先生さえ、いまのわれわれよりはつと若かつたわけだ。

昔は文、帝展の入選発表をみんな東京まで出掛けて行つて悲喜交々できたものです。

当時の展覧会の入選発表をみんな東京まで出掛けて行つて悲喜交々できたものです。

上野の桑松軒というのが京都組の団体宿になつており、そこにゴロゴロして発表を待つている風景はちやうど相撲の取の旅回りのような恰好でした。私の「三羽の鶴」が特選になつたときいたのもそこで、寝ていたら美術工芸学校の教頭であつた荒木先生が馬乗りになつて「起きろ起きろ」という具合に卵吉という人がいました。

京都の会場は岡崎にあり、博覧会場の美術館でも入選発表の風景です。そのころは美術館の南側の大馬場夜の八

み色の布を貼つていたが、しまいごろにはボロボロになり、おまけに雨がもつて作品がよこれるという「雨もり事件」も起るほどでした。ひどく暗い陰気な部屋もあつた。いまの美術館の比ではなかつたが、しかしそこには、いま思ひ浮ぶだけでも平福百穂の「豫談」橋本関雪の「寒山拾得」「南国」松岡映丘の「笠君」菱田春草の「落葉」それに極風先生の「あれ夕立に」など優れた作品が年ごとに飾られました。

とこのころで展覧会に出品する状況というものは今も昔も涙ぐましいものがあるようです。

昔は作品の搬入となると大八車に作品をつみ髪を水菜のようにした出品者が引っぱつていくとみる

と、その後から同じような恰好を



特選 中堂窓一 <瀨 浜>

## 新発足の日展を迎えて

昔は文、帝展の入選発表をみんな東京まで出掛けて行つて悲喜交々できたものです。

昔は作品の搬入となると大八車に作品をつみ髪を水菜のようにした出品者が引っぱつていくとみる



鬼頭鍋三郎 <前庭にて>

極風先生やあるときは石崎光瑤さんが被害者になり大騒ぎしたものです。私憤を大それた形で晴そうという非常識な事件でしたが、考え方によれば、それほど入選することに価値がある時代であり、それをめぐつていまいずれかはげしい喜怒哀楽がうずまいたといえるでしょう。そのころに比べると出品者も鑑賞者もずつと良識的に

### 初出品の弁

高田 淑子

時ごろに事務員がいちいち入選者の名前を読みあげることになっていきました。ちようど入学試験の発表のようなもので、出品者も女房を連れたり父親を連れたり、また大勢の友人に囲まれたり、人によつては樹の上にのぼつたりして発表を聞き入るのですが、名前が読み上げられるにつれてあちこちで「あつた、あつた」とか「バンザイ」とかいふ叫び声があがり、家へ帰るのか、電報でも打つのか暗闇の中をバタバタと走り出すのでした。真剣とか涙ぐましいというか思い返して感傷をさそうものがあります。それだけに落選した人の悲憤、慷慨もひとしおで、審査員の中には落選者からなぐられるからと人力車に護衛をつけて帰る人もあつたほどです。また恐らく落選者の腹いせでしょう、会場に並んだ作品を墨汁をしまったゾウキンでなでて回るといふ「墨塗り事件」もありました。

こんどはじめて出品した日本画の「語らい」が入選しました。入選するとかしなないとかいうことをあまり気にせず、ただ日展の絵が自分にびつたりくるように思つて日展を選んだのです。私たちの美術大学では新制作展に出す人が多いようです。新制作展も悪くはないが、日展のみなさんのなさつていいる仕事からも大いに学ぶものがあると思つていきます。初めての日展出品

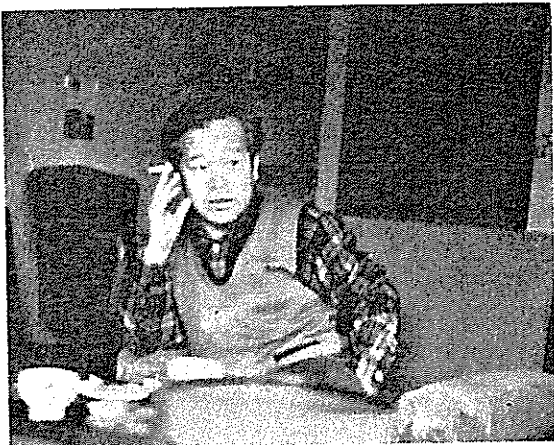
と本画は別のものでしたから。今年には卒業です。どこか就職をしなければならぬのですが、もし決まらなければアルバイトをしながら学校の専攻科であらう勉強したいと思ひます。友人の中には画塾へはいる人もありますが私の場合はそのような関係でまだ何も考へておりません。(美術大学四回生)

## 豪華で重厚な絵を

西山英雄氏

「日展の「豪華」は文部大臣賞でしたね。あれはいまから考へてみると、逆わず積極的にくんぐん押し切つたのですが、ちよつと血気にはやつてうわづりしたように思つて気になるのです。色彩の感覚からして豪華だつたが、調子に乗りすぎた。

「さうするとこれまでの自信作というのはどの辺に置かれますか。豪華であると同時に重厚感があると思ふのです。最近では昨年の日展の「若草」は私らしい体臭と鈍重なものがあつて、比較的うまい、墨、木炭、と思つてマジックインキ、描くものや、気持によつて材料を変えたり、加えたりして、スケッチという段階で絵をつくつてしまふのです。スケッチが進展して本画と同じようなスケッチができるわけです。お前のスケッチ人かほかは、おもしろいといわれるのはこの加減だ



山辰雄調というか……。これは画塾のあり方にも関係があると思ひます。ハしかし大作が多く、みんなボリュムがありますね。私はもう少し小さい方がよかつたと思

作家に

くいつた、や、墨、木炭、と思つてマジックインキ、描くものや、気持によつて材料を変えたり、加えたりして、スケッチという段階で絵をつくつてしまふのです。スケッチが進展して本画と同じようなスケッチができるわけです。お前のスケッチ人かほかは、おもしろいといわれるのはこの加減だ

この間青龍社の佐々木邦彦君に会つたので、また二人展をやろう、ということになりました。今年はずよつと変つた形でやりたい。それから京都の日本画の若い人もほとんど個展を開いてほしいですね。少しのんびり構えていようです。が、いまの時代に遠慮なんかいらんと思

### 日展

会期 1月27日—2月15日  
会場 京都市美術館  
出品は日本画、洋画、彫刻、工芸、書の五部門約五百五十点。

#### 〔観覧料〕

- 前売割引券 八〇円
- 大人券 一〇〇円
- 学生(大学高校) 七〇円
- 小人(小学中学) 五〇円
- 大人団体 八〇円
- 学生 五〇円
- 小人 三〇円

(団体扱いは二十五人以上。二十五人に一人の割合で引率者は無料。貧困家庭児童、生徒の場合もその団体入場者の一割までは無料の扱いをする。)

#### 友の会の皆様へ

美術館の御好意により会員の皆様には「日展」招待券を同封いたしました。

なお会員証は、窓口で提示して入場券(団体料金、但し学生証と両方提示の際は学生団体料金になります。)をお求めの上入場して下さい。

か

私の絵のことでよく梅原三郎さんを引き合ひに出されるのです。私は梅原さんが好きですが、あれに近づけようとしていゝるのではありません。梅原さんの絵には豪華なうえに独特の人間味がありますね。

ずけようとしていゝるのではありません。梅原さんの絵には豪華なうえに独特の人間味がありますね。真似といわれるとどうも……。それにご自分自身にしっかりとしたデッサンがあるという意味でしょうね。私はスケッチをいろいろな形でやります。油、水彩、墨、木炭、と思つてマジックインキ、描くものや、気持によつて材料を変えたり、加えたりして、スケッチという段階で絵をつくつてしまふのです。スケッチが進展して本画と同じようなスケッチができるわけです。お前のスケッチ人かほかは、おもしろいといわれるのはこの加減だ

いいます。いままでの日本画では写生と本画は別のものでしたから。今年には卒業です。どこか就職をしなければならぬのですが、もし決まらなければアルバイトをしながら学校の専攻科であらう勉強したいと思ひます。友人の中には画塾へはいる人もありますが私の場合はそのような関係でまだ何も考へておりません。(美術大学四回生)

△今年のご予定は▽

この間青龍社の佐々木邦彦君に会つたので、また二人展をやろう、ということになりました。今年はずよつと変つた形でやりたい。それから京都の日本画の若い人もほとんど個展を開いてほしいですね。少しのんびり構えていようです。が、いまの時代に遠慮なんかいらんと思

西山英雄氏 日本画家、日展評議員。明治四十四年京都市立、京都絵専卒、現京都学芸大教授、住所は京都市伏見区深草願成町。



# オシュコルヌ氏夫妻の 日展合評

三月十五日で閉幕した第一回日展の最終日、関西日仏学館教授のジャン・ビエール・オシュコルヌ氏夫妻がひよつこり会場に現れた。二人で感想や意見を交わしながら、手に日本画をみて回ったが、その批評感想はすこぶる率直なもの。ときどき「わからない。わからない」を口ばさみながらも、その「わからない」にニュアンスをこめたりする。夫妻はいわば「日本に親和せるフランス精神の代表」というところだろうが、以下は一作一作を前にしての合評である。

の構成、一枚一枚の葉の形が面白く、とてもよいと思う。オ氏、面白くないよ。色が暗く陰気だとは思わない？ ほかの絵も合わせて暗い絵がなせこんなに多いのだから。

森白甫「松」オ氏、それよりこの方が造形もたしかで立派だ。オ氏、そうかしら、色紙をはりつけたみたいに見える。

小川立夫「坂」オ氏、これはなかなかよい。オ氏、よいですね。オ氏、はじめで意見が合いました。この絵には元気があ

るし、考え方も元気があつた。猪原大華「竹」オ氏、私に合います。洗練された趣味があります。オ氏、これこそ色紙はつたみたいじゃないか。



日展をみるオシュコルヌ氏夫妻

福田平八郎「水」オ氏、めずらしい色ね。オ氏、この絵具は光つているね。オ氏、人、すきな絵です。オ氏、私に額がきにくわぬ。オ氏、私には額がみえない。オ氏、日ざわりになりませんか。オ氏、なりませぬ。

徳岡神泉「精霊」オ氏、深い思想をもつ絵らしいがよくわからぬ。オ氏、そこが思想のねうちぢやないの。

宇田坂野「野々宮」オ氏、このう静かでみずびな京師は清えつつありますね。絵も消えるように

うすい。オ氏、しかしこういう細かい仕事をする人はもうないのでしょう。本場の日本の絵と思

う。オ氏、これは古い絵画の幽霊だよ。細かい仕事がよくとあんながいうのは、カゴなら細かい竹

であった方がよいというのと変らないよ。私はこの絵を別にほめません。オ氏、私は非常に筋の通つた作品だと思います。

西山翠峰「黒豹」オ氏、全体の形がよい。それにすこい眼です

ね。オ氏、デッサンがよいです。ね。橋原耕佐子「扇」オ氏、ホリス

がきれいね。どことなくシャルムがある。ポリウムもよくついている。オ氏、わたしは芸術者の絵は

さういふところがいいですか。よくふとつていきますね。東山魁夷「秋晴」オ氏、これはよい。ちよつとこらぬ。オ氏、なるほど。色も美しい。空のひろ

ちよつと

ボクは陶芸家のセカレに生れたので仕方なしに茶ワン屋になつた。別に重大な決意があつたわけではない。とこら茶ワン

屋のセカレにロクなのがおり



ボクは陶芸家のセカレに生れたので仕方なしに茶ワン屋になつた。別に重大な決意があつたわけではない。とこら茶ワン屋のセカレにロクなのがおり

不景気である。オ氏、クラフトマンになり切れんとはどういうわけでしょう。灰皿やちよつとした

宝みみたいな実用向きをやるにはボクの性分が傾斜しすぎているらしいものになるし、皿、つしらえてもパーヤ

ノミ屋向きになつてしまふ。要するに家庭にはいつてくるような品物になりやらん。これでは本場のクラフトにはならんわけです。そ

れに東京の新しい生活環境の中でイキをしているのならともかく、京都にいて、モダンスタイルのキッチンルームのための×××というふうなことを云うて

ん、古今の名士の例をみても、代目あたりは外からはいつて来た人が多い。ところがボクは茶ワン屋の商売のセカレで、ロクでなしの一人ということにな

でもおどろきますよ。二三年前の福田平八郎さんのカワラの絵に、あのよい作品です。西山英雄「裏磐梯」オ氏、きついでですね。わかりません。オ氏、それだけのことはあります。会場を出て。オ氏、すいぶん大きな絵が多いですね。オ氏、私はルーブルよりつかれました。絵をみるために努力して自らと闘いました。それにこんな大きな絵は日本のお座敷にははいらんでしょう。床の間にはかけられないし、そうかといつてルネッサンス風の西洋建築にもちよつと喰ひ込みでしよう。日本画は現代の孤児になりませんか。オ氏、しかしこの展覧会の絵はホスターミたいなものでしよう。展覧会で名前をあげておくとあとで金持が絵の注文をする。オ氏、単なるホスターならみたくない。名前をあげておく必要なんかないよ。オ氏、しかしお金持は名前のある人でないと買わない。オ氏、それにしても、日展だけではないでしょうが、日本人として無責任な絵が多いね。もつと風土に適合しなければよい絵がなれてくると思ひますよ。

## 美術館の利用高まる

二三年前各美術館グループの美術館利用は急速に高まり、ほとんど飽和状態に近くなつた。行動や新制作など全国的な団体さらにハンリアルや走泥社のように比較的若くから美術館で展覧会を開いて来たグループのほかに最近では日展系の塾、研究団体の使用申込みが目立つてきた。昨年度日本画の青塔社や陶芸の青陶会が美術館に進出したのもその例だが、同じく二紀展が昨秋美術館で開幕したのに続いて今年はいくつか専らデパートを舞台にしていた光風会も美術館で公開される。その他学生団体や書塾の利用も高い。

## 読売から映写機寄贈

旧暦から年始にかけて美術館で開かれたファン・ゴッホ展（主催読売新聞社、京都市はか）を記念して読売新聞社から美術館に北辰16ミリ映写機が贈られた。今後フィルムライブラリーなどからフィルムを借受け、美術館で行う美術講座や友の会の会合、販賣会などに活用が予定す。

## 八木一夫氏 陶芸家走泥社同人、大正七年生れ。父一卿氏に陶技を学び、戦後の二十三年走泥社を創立した。陶芸の世界にオブジエ

（特殊の意味をねらつた物体）をもちこみ一派を開いている。現住所 京都市東山区五条坂白糸町

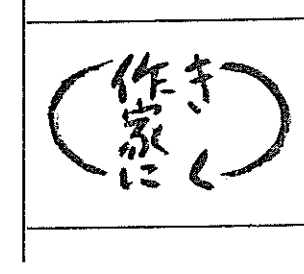
## 焼に至る発端でした。

「今後はどうなるでしょう。同じようからぬなら一品制作か準一品制作でいきたい。」「安いのをより多く、大衆のために」というスローガンにはボクら採算が合わないでついでいけん。小さい皿をやいてもその形が一方でニーツと張出たり、まくれ上つたり。そこにボク流の神経があると思うのだが、それだけ大きいサヤに入れんとあかん勘定でコスト高になる。そんなことをしてまで、ちよつひりしたモウケを追うよりはむしろ孤高の精神でいつてやろうと思つている。やはりボクはロマンの残党です。

## 「ロマンの残党」として

### 八木一夫氏

「景気はいかがですか？」世の中はどうあるかと、所詮わが能力にあきらめを抱く半層に達しました。これまでにいわゆる一品制作を進めて、ひいては「オブジエ」にまでいつたのですが、この純粹芸術ではメンの種になりやらん。それでいざさか清水鏡の伝統に因んでクラフトマンを気取つてやろうとしたが、それらしきものはできて



# 展覧会案内

同志社クラマ画会四回生卒業展 4日-8日  
 テーチャル会四人展 10日-12日  
 白朱印会同人展 14日-16日  
 グループ野崎第二回商業デザイン展 18日-22日  
 一陽会書道展 24日-26日

## ▽美術館

3月  
 美安会日本画展 7日-12日  
 毎々会日本画展 17日-22日

## ▽大丸美術部画廊

4日-9日  
 日本工芸青年の会展  
 3月  
 加藤士郎前欧米スケッチ陶顔展 2日まで  
 加藤具象派作家展 10日-15日  
 京都綜合版画展 17日-22日  
 西工公展 24日-29日

## ▽京都府ギャラリー

3月  
 尙院会日本画展 3日まで  
 一陽会京都作家展 6日-10日  
 ハンリアル作品展 12日-16日  
 衣笠会日本画展 19日-24日  
 びそん工芸展 27日-31日

## ▽丸物美術部画廊

3月  
 安井善心俳画展 5日まで

## ▽京都国立博物館

常設陳列(3月9日ごろ陳列替えの予定)

## ▽市立神戸美術館

石原・島津二人展 2日まで  
 鉄斎漢仙筆名作展 25日まで

## メモ

## ブリヂストン 展を団体賞鑑 友の会



美術館友の会では二月二十一日大阪大丸で開催中のブリヂストン美術館展の団体観賞を行いました。多数の参加者があつて盛会でした。友の会員は往復のバス代、入場料とも全額友の会の負担、同作者の場合も二百円の臨時会費だけで同行できるという好条件がそろいましたので、会員一八人、同伴者四〇人を数え、最初一台だけ予定したバスを四台に増すなど、お世話をした係員も盛況に驚くほどでした。バスは朝七時五十分、河原町今出川、八時十分、四條大宮をそれぞれ発車、車中では美術大学助教授木村重信氏はじめ美術館員の展覧会解説が行われました。ブリヂストン美術館の関西公開ははじめてのことであり、会場は連日非常な混雑を呈しましたが、とくに大丸百貨店の御好意で開店前に入場の便宜をはかつてもらいましたので、落ち着いた気分で見賞することができました。帰りのバスは大丸前を午後二時発車で、かなり時間にゆとりがあり、買物や心斎橋筋の散策に鑑賞後のひとときを楽しんだ人も多かつたようです。会員の井口誠一氏その他から丁寧なお礼状をいただきましたが、係一同もますます御期待にそうよう努めるつもりです。

▽友の会総会は、四月十九日(日)に開きます。

▽六月はじめごろ会員のみで西洋名画の収集で有名な倉敷の大原美術館の見学会を催したいと思つています。要項は次号のニュースに発表します。

○会費払込の際は同封の振替用紙を御利用下さい。(写真はブリヂストン展を鑑賞する友の会会員)

# 京都市 美術館

発行所 京都市美術館  
 京都市左京区岡崎公園 電④4107

昭和34年3月31日発行 17号

## 欧米の旅から 河北倫明

ニューヨークにくらべるとポストン立、模なども家庭調度の中には落ち着いた静かな町である。その印象持込んでいる。殊に面白いのは非常に京都に近いものだ。ほかの都市とは言葉つきも違ふようだし学者の多い町である。

有名なハーバード大学は古色蒼然とした校舎、施設のなかに沈んでもの静かなたたずまいである。このポストンで面白かつたのは岡倉天心と交際のあったイサベラ・ガードナー夫人の美術館である。ガードナー夫人はすでに故人であるが、その邸宅が美術館になつていて、生前に集められた多数の美術品が並べられている。日本の絵画では桃山、江戸の装飾画が中心におかれており仏画もあつた。夫人は若くして夫を失つたが、その後はひとすじに芸術に情熱を捧げたらしく、美術品を収集して熱心なパトロンとなつたのである。初期のポストン人らしい純粋な情

熱が恐らく自ら集品にも収たはる。とにかくこのおしやべ出たのである。なるほどラテン文明の古さをしめしめと感じた。

アメカリの教養ある家庭ではの遺跡が占領している。そのすぐそば古い写生画をかが至るところに見られる。趣味の流行は、古の競技場であつたフォーラムは何もにも使われておらず、中は原つぱら石がごろごろしたまま保存されている。建物に附属し、あるいは独立の形でこのされた彫刻もおびた。その中でキリスト教以前のローマ皇帝の肖像には感慨を覚えさせられた。しかし彫刻自体は退屈で、それにバチカンにも寺院にも美術館にも、至るところにあるのでいちいち見る気がしなかつた。いらぬものも多い。見受けられたので各寺院から一つずつでもよいカトリック教団を通じて寄贈してもらえたら日本では有難い美術館ができるのではないか。ブドウ酒はイタリアよりフランスの方がうまかつた。フーレンスは余り洗練されすぎていて、少々窮屈を感じた。よかつたのは田舎町のアレツツオでここにこそ中世時代のイタリーが生きている感じが

あわたたしい旅程であつたが、この旅を通じて考えたことは日本人に本當の意味の独創能力があるのかどうかということであつた。ここでは「独創」をこれまでになく別のものをつくり出す、というごく普通の意味で考えているのだが、日本人は器用すぎて却つて独創の力を眠らせる結果になつてい

る。欧米諸国のデパートでは買物包を包ませてもかきかきせよものならずいぶんひまがかかる。売子らが実に無器用なことであつた。一枚紙の包装紙に品物、それもいろいろの大きさ、形の紙袋があつてそこへ品物を入れてわたすところが多い。また外人の暗算能力もきわめて低い。日本人なら頭で軽く答えを出すところをあちらではいちいち計算である。

しかし考えてみるとこの西洋人の心身にわたる無器用さこそ紙の袋から計算機まで——今までになかつた別ものを生み出す契機になつたのではないか。これに対して日本人は器用であるので現在あるものなかに一番よいものを使つて物事をすましてしまふ。いまさら新しいものをつくる必要がないわけである。しかしこのように自らを器用に適応させるといふ生活の方式からは決定的なもの生れてこない。これは美術の創造に無関係のことではないだらう。日本人の独創能力について考えさせられたゆえんである。(談)

国立近代美術館事業課長

見	聞
紀	談

岡部三郎

### 翠嶂の「權花」

美術館は、近く西山翠嶂「權花」を買上げることに決定した。ずっと以前、美術館が建てたはじめの頃は、作家は自作を館に寄贈するしきたりのようなものが出来ていた。当時、京都大学の植田教授は、この絵を熱心に推挙されたが、作者は未完成の絵を手ばなすことをためらわれて、とうとう実現せずじまいに終わった。ところが、先年翠嶂が亡くなられ、丁度一周忌に当たる頃、この話が遺族側から再燃し、早速本年度買上委員会の議題となった。この作品は、大正十二年の作であるから四十年近くも前の、彼の上昇期にある作品のうちでも、「落梅」と共に、よく一般から知られているものである。大正十二年と云えば、関東大震災の年で、恒例の帝展は開かれず、その代り、大阪毎日・東京日日の両新聞社が主催して、「日



金島氏ら芸術院会員に

生れ、十四才で竹内栖鳳に師事した。文展に「落梅」を出品し画壇に決定的な地位を占めたのは大正七年であった。栖鳳が亡くなる後、この京都派の長老として多くの後進を誘導したことは衆知の通りである。彼は賢明にも、早く前時代の四糸派風の絵画様式から離れて行つたけれども、最初は、この伝統絵画の手ほどきから出発したのであつて、後年には、この四糸・円山派の絵画に対する含蓄ある意見を作画上にも示してい

た。「權花」の出来たのは「落梅」の四年後で、近代描写がすっかり身につけてしまつてからの、好んで西歐画を見た頃の、いわゆる当時の新しい作風を示す作品である。しかし、このような新しい傾向も、この頃の一般の風潮に見られるもので、別に新しい運動に熱中したわけではなかつた。むしろ、この絵は、四糸派以来の京都派と云われる絵と同じように、極く自然に染しむべき絵であつて、またそれなりに、染しめる絵でもある。まことに失礼な言い方ではあるが、ドラフトマンらしい頭の働きの要領よく纏め上げたところは、流石に感心させられる。翠嶂の、新しい作風もそう永くつづかなかつた。これで、館は「馬」と共に、翠嶂の絵を二点もつことになる。(当館嘱託)

- #### 第十一回京展要項
- 今年もそろそろ京展が近づいて来ました。昭和二十年秋に第一回展を開いて以来京都の美術界の毎年の恒例行事となつて来ました京展は本年度で第十一回目を数えますが、次の要項で開催することになりました。
- 会 期 昭和34年5月3日—17日
- 会 場 京都市美術館
- 募集作品
- 1部 日本画 (油絵、水彩、版画) 十号以上に限る。
  - 2部 洋画 (油絵、水彩、版画) 十号以上に限る。
  - 3部 彫塑
  - 4部 工芸
  - 5部 綴二・四米、横一・五米以内。枠張りしたものに限る。
- 各部共一人三点以内。
- 出品料 一点五〇〇円、三点まで一千元
- 搬 入 洋画、彫塑、書 4月22・23日  
日本画、工芸 4月24・25日  
何れも10時から4時まで。
- 当館支關へ。2点以上の場合には必ず同時に搬入して下さい。
- 授 賞 市長賞 新聞社賞等 4月30日午後3時の予定
- 入 選発表 4月30日午後3時
- 搬 出 入・落選共5月18・19日

### ありのままの一筋に

梶原 緋佐子氏

「昔語りを致しましょう」  
「成可く昔語りはしたくありませんね、年が判りますもの。けどまあ大体昔を想うと大甘々ですね、葉桜の頃の雨の晩と云つた感じですよ。」

ええ、あの頃泉鏡花の小説を随分読みました。けど直接の影響をうけたとは思いません、鏡花と云えば清方先生ですもの。あのいきと張りとは私なんかにはトモトモトモ……私には私なりに市井の平凡な女の悲しみを描いてた積りですの。そうですか、大正文化の基調は悲し

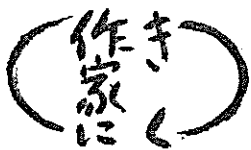


今年の日展のお作をオシエ

「貴方お口が上手だから当てにならないわ、ホリユムがあるつて云つてらしたんぢやありませんか？人並より小さい私が何故また恰幅の好い女ばかり描くんですしやう。え、インフエリマリチ何んですつて？ それそれ

たものですわね。せいぜい多感症と云う位のところでしよう。「お水取りの夜」はめて頂いて有難度う。あの女の横顔ですか？多感と云えば多感、愚か者と云えば愚かな女の寂しさでしようね。男の方には一寸解つていただけなにかしら。あれは？大正十三年の帝展ですか——想えば大正ももう遠くなりましたね。

「死んだ松助が好きでした。これで仲々渋いところがありません。それから何んか云つても先代梅幸です、お品もありまして、あのしやがれた口跡さえまだ耳に聞えるようですよ。ええ、そう、羽左衛門と連れなつた紫の舞台なんかもう見られませぬね。現代の俳優では友右衛門と幸四郎が好きです。一時途絶えていましたが又時々お芝居見物しますの。



「貴方お口が上手だから当てにならないわ、ホリユムがあるつて云つてらしたんぢやありませんか？人並より小さい私が何故また恰幅の好い女ばかり描くんですしやう。え、インフエリマリチ何んですつて？ それそれ

「死んだ松助が好きでした。これで仲々渋いところがありません。それから何んか云つても先代梅幸です、お品もありまして、あのしやがれた口跡さえまだ耳に聞えるようですよ。ええ、そう、羽左衛門と連れなつた紫の舞台なんかもう見られませぬね。現代の俳優では友右衛門と幸四郎が好きです。一時途絶えていましたが又時々お芝居見物しますの。

「死んだ松助が好きでした。これで仲々渋いところがありません。それから何んか云つても先代梅幸です、お品もありまして、あのしやがれた口跡さえまだ耳に聞えるようですよ。ええ、そう、羽左衛門と連れなつた紫の舞台なんかもう見られませぬね。現代の俳優では友右衛門と幸四郎が好きです。一時途絶えていましたが又時々お芝居見物しますの。

# 児童美術 教室の一年

美術館友の会の人々の間に児童美術教室を作つてほしいとの要望があり、これに応えて友の会では指導者に北白川小学校の西田秀雄氏を迎え、顧問に京都大学文学部教授井島勉氏をお願いして昨年四月十二日開室式をあげた。

それから一年間、毎週土曜日の午後一時半から夕方まで、快晴の日は美術館庭の芝生の上で、静物画や大作の時などは美術館のアトリエで指導が行なわれた。

指導者から個人的にいろいろな指導が受けられるように、との配慮から人数は友の会の子弟三十五名に限られたが、欠席も殆どなく毎土曜を楽しんで集まり、制作に熱中したり展示会の鑑賞をするなど充実した勉強が続けられた。

この美術教室での指導はたちまち全市美術教育者の注目をあび、近郊はもとより遠く九州北海道からも参観者を迎

えたが、コンテと水彩併用の絵、和紙に竹ペンで形をとつて裏から水彩を塗つた絵、筆を使わずにしゴムでかく絵など新しい技法による指導は、直ちに各学校で試みられるようになった。

又、この教室のすぐれた特徴の一つである連絡簿によつて指導者から毎回の作品に対する適切な助言、感想、要望が各父兄に届けられ、家庭のお母さん方にも児童画への理解を深めてきたのである。また各個人の実技の力も極めて伸張して学校での図工の評価を高め、全国的なコンクールに度々受賞したり、市民憲章ポスターの入選入賞などにも

これがあらわれたのである。このほか教室は地の利を得て、美術館で開催される各種展示会の鑑賞も容易であり、平安神宮や図書館などの美しい建物も多く、これらの写生や岡崎グラウンドでのラケット、パレーボール、野球或は疏水での水泳など日頃学校での図画ではかけない画材にも恵まれ、単に絵だけでなくの子も明朗な性格になつたと父兄の方からもよろこば

れるようになった。

友の会の事業として実施された児童美術教室の一ヶ年をかえりみると、誠に有意義な事業であつたし今後も生々発展ますます充実することを願つてやまない。そしてこの一ヶ年の成果発表として指導の解説もつけて四月十六日から十九日まで美術館で作品の展示をするが、これが誰かを啓発し誰かに感動を与えることを期待する。

## 展覧会案内

- 美術館 16日まで
- 日本文化展
- 日本染織図案家連盟創立十周年記念展 5日-6日
- 全日本青少年作品展
- 新制作日本画展 10日-12日
- 行動美術京都作家クラブ展 2日-6日
- 室内装飾織物図案展 8日
- 新制作日本画五人展 11日-15日
- 芝田米三個展 17日-21日
- 上原卓個展 23日-27日
- 楠田撫泉作品展 30日-5月2日

▽京都書院画廊  
觀光連盟写真展 11日-14日  
モダンデザイン作品発表会 (京都絹物学園) 20日-23日  
日本画かたつむり会展

東山高校美術クラブ作品展 24日-27日  
▽大丸美術部画廊  
光風会京都グループ展 28日-5月3日

黒潮会日本画展 7日-12日  
春虹会日本画展 14日-19日  
武具刀剣展 21日-26日  
武具刀剣展 28日-5月3日

▽丸物美術部画廊  
句仏上人展 9日まで

皇太子御成婚記念日本画展 10日-23日  
現代東西大家百器展 25日-30日

▽土橋画廊  
虹原会日本画展 5日まで  
亀井玄兵衛作陶展 10日-12日

▽大阪市立美術館  
関西総合美術展 5日-29日  
▽大阪城天守閣  
大阪今昔展 19日まで

▽白鶴美術館  
白鶴春巻展 5月31日まで

## 会友のよ

総会 4月19日(日) 午後1時から。終了后当日開催中の「新制作日本画展」美術館児童教室展

を鑑賞しますから繰り合せ御出席下さい。会員は新制作展をこの時に限り無料鑑賞出来ます。

児童美術教室会員を左記により補充募集

- 1 期間は4月から9月まで。
- 2 友の会会員の子弟で小学生に限る。
- 3 今回の補充募集は約25名で、4月11日(土)午後2時に美術館で選考します。
- 4 会費は、入会の際に千円、毎月二五〇円徴収します。

大原美術館の見学会  
本号では左の概要に止め、次号でコース、申込方法などの詳細をお知らせします。

- 1 期日は6月6日、7日の一泊二日になります。
- 2 臨時会費は大人二、〇〇〇円、小人一、七〇〇円、幼児五〇〇円程度になります。
- 3 募集人員は50人とし

No. 18

京特 展集

# 京都市 美術館二ユース

発行所 京都市美術館 京都市左京区岡崎公園 昭和34年5月8日

## 五部門合せ九百点

### 第十一回京展開く

5月3日-17日

「京展」は京都市美術展覧

いえよう。

会の略称であり、かつては「市展」の名で親しまれてきた。この市展の開設は昭和十年春のことであり、その後各都市で開かれるようになった。市主催の美術展のさきがけをなすものであつた。当時も京都は、現在に優るとも劣らぬ美術の一中心地であり、各日本画塾の主宰する展覧をはじめ工芸、洋画など各部門にわたる発表展、研究会もさぶる盛んであつたが、そのような盛上りは、昭和八年の大札記念美術館(現京都市美術館)の竣工を機に必然的に総合的美術展へと発展していった。日本の美術界における京都の特質性に対する自負と若い作家に登竜門を開くというの、その内的動因だつたと

いで伝えてゐる。受賞作家に

は西山英雄、北沢映月、三輪晃勢、錦義一郎、番浦省吾ら

当時の新鋭が選ばれている。さらに回を重ねるにつれて

日本画では西山翠暉、菊池契月、川村曼舟ら大家の出品も恒例となり京都市的な色彩を深めていった。また日本画の出品が毎年四百点以上を数え、それに対して洋画は二百

点内外で、日本画だけで二階全館がうすまつたから今日の

状態とくらべ合せて著しい美術界の変遷を思わせる。この

ようにして市展は昭和十八年まで八回を数え、さらに十九

年には「平安神宮御鎮座五十年・平安遷都五十年奉祝市展」と銘うって盛大に開催さ

れた。戦禍内地に及んだ時代としては注目すべきこととい

えよう。もつともこの間昭和十五年の第五回展には日本画が毎日新聞社主催の現代美術展に一齊出品して市展には出

品がなく、洋、彫、工の三部門だけで開かれたこともあつ

戦後市展の再興は意外に速く、昭和二十年秋には再開され、敗戦の虚脱のさ中にたたずむ美術家に抛りどころを与えた。京展と名称の改まつたのはこのときで、これが第一回展となつた。

もちろん大綱において市展時代と変らなかつたが、審査員の顔ぶれも改まり、出品依頼作家も厳選されるなど多少とも時代の変革がこの美術展のうえにも刻まれた。

しかしこのようにして再開された京展も二十一年には米軍が美術館を接収したことに

よつて会場を失い、そのため博物館や美術、デパートを会場に苦心して開かれた。しか

し京展を美術館外で開くことも二十四年以降は不可能にな

り、二十八年接収解除によつて第五回展が開催されるまで

四年間のブランクを残した。二十八年の再開に関連して注

意されるべきことは、日展に書展にも第五部書が加えられた

ことであろう。ここに京展は現在の形を整えたのである。



見	聞
紀	談

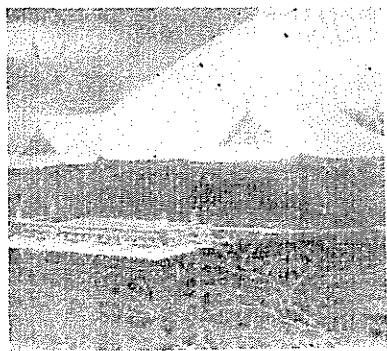
### 萩邸の「清水寺」

焼けた小御所の普請が出来あがつて間もない頃だつたらしい。宇田萩邸さんの机の上の、出来たばかりの小御所の記念写真は可なり枚数になつていた。翌月の門下生達が建築作業と平行して新しく復元していた同じ小御所の絵巻も写真で見ると相対な敷である。宇田さんの分担された部分には、襖四枚かと思うが屏風ほどある画面いっぱい大きく富士の図が描れている。

「なんぼなんでも、もとどおりにいかんさかいなあ、御所にお話して、思うようにやらしてもらいました」と云われる。写真でも、すぐそれとわかる金泥紺碧の見事なものである。仕事が仕事だから自分を押

えて描かれたであろうが、行届いた繊細な心経は、気のせいいかもの画よりもはるかに華麗なものにしていた。いまだき富士なぞの絵を、それも御所絵巻に復元するような制約の多い仕事もこうして見ると、まるで、そんな風には見えぬのが不思議な位である。もともと復元模写なぞの仕事は一見安易な仕事のように思われるが実際は余程高度の技術を身に付けた優れた画家でないとうまくゆかないものである。

近頃では画家と云うものをそのような風に見なくなつてしまつたけれども、宇田さんのたゞき込まれた上方らしい画技に対する識者からの評価は流石に落ちない。宇田萩邸は大正六年、京都絵画専門学校を卒業した。神楽と一緒である。



清水寺

て十年にもならない早さである。母校では案本一洋と同じ教室で教鞭をとっていたが、その理由は二人の作風が似ていることにあるらしい。作風は、むづかしく云えば切りがないが、まあ、大和絵風と云つてよい。近頃、よく使われる京都派と云う言葉は、考えて見ると余り明瞭な言葉でもないが、何か京都の特異な伝統なり、歴史の

背景なりを必要な度合に意識して使う場合、不思議によく通じる言葉である。そのような云い方をすると、萩邸は最も典型的な京都の画家である。この古い街に残る習俗が作り出す幽微な感情を、萩邸のように繊細な浪漫的表現をもつて再現して見せる画家は、そうざらにないのである。絵画様式から見ると、明治の日本画の成立の

仕方が様式の折衷と云うところから出発したように、萩邸の場合でも濃いつけた色をもつていて、いくつかの過去の様式とつながっている。作品経歴をたどると、初期の「山村」のような南画様式に傾いたものから「淀の水車」「粟」「淡間」のような桃山障壁画風の着想のものや「大原寂光院」「祇園の雨」「清水寺」など大和絵風の叙情描写まで多岐にわたっているのだが、そのマネリスムはもはや前時代のものではない。いつも萩邸の作品が古典的と云われるのは、その嗜好や趣味、その他いろいろの因子、ことにあの一貫した様式感から来るのであろうが、萩邸の立場は、翌月の新古典主義活動と関連せしめて考える時、一層はつきりする。菊池契月は、萩邸が師事するようになって間もなく、日本古典美術に打ち込んで、鎌倉時代の線描画を追うかのよう

に多くの人物画を残して行つた。萩邸が桃山美術に視点を固着させたのもこの時で、その直接の動機を妻徳との親交に求めることも出来るが、萩邸の作風に一貫して見られる桃山障壁画を想起せしめる画風は、この翌月の新古典主義運動を軸として育つて行つたものである。

ある。「淀の水車」はこうして生れたのである。しかし、萩邸が近代画家として一番苦労したのはマネリスムの問題だ。何度も、何度も繰り返される真摯な習練のうちには、はじめて開眼するよきに会得する技術の世界「マネリスム」が、萩邸の場合、芸術がアートと云われる本来の意味をもつて来るのであろう。私は、かつて萩邸を感覚に一層の権威を認めようとする側の芸術家と評してお小言を頂戴したことがある。いかにも謙遜めいたこの言葉は少々細にさわる言葉だが、私は、この語を近代の芸術に關与する最も高い能力の一つとして使つたつもりであつた。この傾向は、とくに京都派と呼ばれる画家に共通した根元的な特徴であつて、萩邸が作画の細部に示す精緻なマネリスムも京都人のボンサンヌの上に成り立っているやはり新しい意識の中から生れて来るのである。

今度、当館の所有となつた「清水寺」は、あの江戸時代に再建された舞台建築を雪の日に取材した得意の名所図絵と云つたようなもの。昨年の日展出品作。「野々宮」なぞと連作をなすものである。これで当館は「粟」「御塩御殿」と併せて三点所有する。

## 自然・写実・自由

上村松篁氏

△この間美術館で開かれた新作日本画展は評判がよかつたようだが

よくもこれだけ育つたものだと思います。戦後の二十三年にわたしたちがつくつた「創造美術」が新制作日本画部の前身ですが、少数の会員だけでやつていくつもりで、公募展ということもはじめからはつきり考えていたわけではなかつたのです。しかし今ではまじめな若い人が自由の天地を求めて集つてきて、こんどの展覧会も秋の本展に劣らぬ内容をもつていたと思

△新作がほかの日本画の団体とここが違うという点があり

日展なんか会員や役員になれば、まず安全地帯ということでしょう。しかしわたしたちの会員の座はあくまで実力の座です。若い人があとからどんどんできていくので、安閑としておれない。若い人もわたしたちの絵を卒直に批評する。わたしなど絵が古いといつてもやり込められる始末です。しかしその意見がたとえ間違つていたにせよわけへだてなく意見を披瀝してくれるところにわたしたちはよい友人をもつたと思つてゐます。



△新制作がほかの日本画の団体とここが違うという点があり

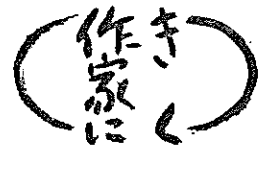
日展なんか会員や役員になれば、まず安全地帯ということでしょう。しかしわたしたちの会員の座はあくまで実力の座です。若い人があとからどんどんできていくので、安閑としておれない。若い人もわたしたちの絵を卒直に批評する。わたしなど絵が古いといつてもやり込められる始末です。しかしその意見がたとえ間違つていたにせよわけへだてなく意見を披瀝してくれるところにわたしたちはよい友人をもつたと思つてゐます。

△新制作がほかの日本画の団体とここが違うという点があり

日展なんか会員や役員になれば、まず安全地帯ということでしょう。しかしわたしたちの会員の座はあくまで実力の座です。若い人があとからどんどんできていくので、安閑としておれない。若い人もわたしたちの絵を卒直に批評する。わたしなど絵が古いといつてもやり込められる始末です。しかしその意見がたとえ間違つていたにせよわけへだてなく意見を披瀝してくれるところにわたしたちはよい友人をもつたと思つてゐます。

△新制作がほかの日本画の団体とここが違うという点があり

日展なんか会員や役員になれば、まず安全地帯ということでしょう。しかしわたしたちの会員の座はあくまで実力の座です。若い人があとからどんどんできていくので、安閑としておれない。若い人もわたしたちの絵を卒直に批評する。わたしなど絵が古いといつてもやり込められる始末です。しかしその意見がたとえ間違つていたにせよわけへだてなく意見を披瀝してくれるところにわたしたちはよい友人をもつたと思つてゐます。



△新制作がほかの日本画の団体とここが違うという点があり

日展なんか会員や役員になれば、まず安全地帯ということでしょう。しかしわたしたちの会員の座はあくまで実力の座です。若い人があとからどんどんできていくので、安閑としておれない。若い人もわたしたちの絵を卒直に批評する。わたしなど絵が古いといつてもやり込められる始末です。しかしその意見がたとえ間違つていたにせよわけへだてなく意見を披瀝してくれるところにわたしたちはよい友人をもつたと思つてゐます。

△新制作がほかの日本画の団体とここが違うという点があり

日展なんか会員や役員になれば、まず安全地帯ということでしょう。しかしわたしたちの会員の座はあくまで実力の座です。若い人があとからどんどんできていくので、安閑としておれない。若い人もわたしたちの絵を卒直に批評する。わたしなど絵が古いといつてもやり込められる始末です。しかしその意見がたとえ間違つていたにせよわけへだてなく意見を披瀝してくれるところにわたしたちはよい友人をもつたと思つてゐます。